イスラエルから正式参加申込書

11月14日〜28日 オリンピックアジア予選決定

もつれにもつれていたオリンピックアジア地域予選は11月14日から28日まで日本で行われることにようやく決定した。——同予選に出場を予定される韓国は6月3日、日本は同4日に正式参加届けを提出、残るイスラエルは日本側の旅費負担額を再確認したのちに届出るという態度のまま時日が過ぎた。日本協会は6月26日の常務理事会で「イスラエルには3月の三国会談（3月26日・名古屋）の申しあわせどうり往復旅費の60%を支払う」ことを決定、この結果イスラエルから7月13日「正式参加」が入電した。これで国際ハンドボール連盟（IHF）がアジア予選出場を義務づけた三ケ国は開催国・日本協会に対しいずれも各国オリンピック委員会の出場認可書を添えた正式な申しこみ手続きを完了したことになる。

日本協会は7月17日常務理事会を開き、具体的な運営に着手するとともに別表の日程を確定、各国に対し第2次エントリー（役員・選手名登録）の〆切りを10月10日とすることを通知した。

オリンピックアジア予選日程

日	程
11月14日(日)	日本—イスラエル(東京体育館)
17日(水)	韓国—イスラエル(東京体育館)
20日(土)	日本—韓国(大阪市中央体育館)
〜以上第1次リーグ〜	
23日(火)	日本—イスラエル(愛知県体育館)
26日(金)	韓国—イスラエル(駒沢屋内球技場)
28日(日)	日本—韓国(駒沢屋内球技場)
〜以上第2次リーグへ〜	

▽……イスラエルにゆさぶられた半年間であった。2月の三国会談直前の欠席通知にはじまって、旅費負担額をめぐる日本・イスラエル間の食いちがいは幾度か日本協会関係者に「イスラエル除外」の強硬意見を吐かせるほどであった。

しかし、36年ぶりに迎えるオリンピック競技。各国の情熱、意欲を考えれば簡単に割り切れる問題ではなく、最後は日本側がそれまでのイスラエルに対する〃感情〃を一切とり除いて、三国会談で申しあわせた条件どうりに落ち着かせることでケリがついた。

▽……6月上旬、日本がイスラエルに対して「三国会談後に示されたIHF文書にもとづき旅費負担額は40%」とした提案に、イスラエルは6月23日「三国会談の決議を優先させなければいっさいの提案を拒否する」という回答をよせた。

これは事実上オリンピックアジア予選を白紙にもどすことを意味するもので、日本協会では6月26日の常務理事会で2時間にわたって協議「アジアにおけるハンドボール発展のため」という大前提と「3月に60%を承認した」いきさつもあり、イスラエル側の要求をのむことに決定、7月15日までに正式参加届けを提出するようイスラエルに要望していた。

▽……日本とイスラエルの間を必要以上に混乱させたのは4月29日付のIHF文書だ。同文書では「開催国・日本はイスラエル、韓国に対し往復旅費の40%をうけもつ」と示されていた。日本協会はこれを4月上旬に送った三国会談報告書に対するIHFの回答（見解）とみていたのだが、6月27日になってIHFから「三国会談の結果を優先して運営されたい。三国会談の旅費負担額（注・60%）を我々は知らなかった」との電報が送られて来た。IHFの見解ということで40%に固執していた日本協会関係者もこの報せは狐につままれたようなもの、この文書にふりまわされていたといえなくもない。

▽……三国が正式に出揃ったところで、日本協会はただちに具体的な運営へと段階を進めているが、最大の課題は大会経費約一千五百万円の捻出にある。会長、副会長、荒川理事長、嶋田常務理事による「資金委員会」も活動を開始したが

協会首脳陣は入場料収入6、広告・放送権・寄附収入2、自己資金2の割合でメドをつけているようだ。残る百十日間で思惑どおりコトが進むかどうか。

特に九百万円ちかい入場券の売りあげ目標は全国関係者、ファンの全面的なバックアップを得なければとうてい果たせないであろう

9月26日全国理事会

日本協会は7月17日の常務理事会で今秋の全国会議日程を次のように内定した。

・臨時全国理事会　9月26日
・臨時全国評議員会　10月3日

いずれも東京。

「ハンドボール」8月号（第89号）目次

【表紙写真】全日本選抜大会6月26日於東京体育館全日本—関東選抜　全日本枝尾米のブロックによって渡辺のシュート決る。

9月4日から国際試合（全7戦）

史上最強のメンバー来日か

スウェーデン・ナショナルチーム

待望の日本・スウェーデン国際試合が1ケ月後にせまった——。スウェーデンハンドボール協会はこのほどミュンヘン・オリンピック候補22名を発表し、積極的な強化対策を推し進めることになったが、このうち16名が来日、全日本などと7試合を行う。

22名の候補選手はスウェーデン球界の精鋭をもうらし、ミュンヘンの金メダル候補といわれるのにふさわしい充実した陣容である。

特にL・エリクソン（1m91、85K）、B・アンデルセン（1m96、00K）、F・ストリョーム（GK）ら昨春の世界選手権（6位）で活躍したヨーロッパの花形選手が健在なのは注目され、8月上旬に発表される来日メンバーはこれまで日本を訪れた外国チームの中で最強の編成となろう。

一行は9月2日午前9時35分羽田空港着。4日横浜文化体育館における全日本との第1戦を皮切りに18日までに東京、甲府、四日市、大阪、熊本で7試合（うち全日本4試合）が行われる。

スウェーデンはこれまで世界選手権（7人制）で優勝2回、2位1回、3位2回、5位・6位各1回の成績を残し、11人制でも優勝1回をとげた世界ハンドボール界屈指の強豪。

オリンピックで上位入賞をめざす全日本にとっては、アジア予選を前にまたとない相手であり、球史に残る熱戦が各方面から期待されている。

なお、来日チームに同行する役員は9名でスウェーデンナショナルチームのヘッドコーチ、R・マットソン氏と現代最高のレフェリーと定評のあるヤーネルスタム氏の名も見える。

【日本・スウェーデン国際試合日程】①9月4日17時・対全日本（横浜文化体育館）②9月5日15時・対全日本（山梨県体育館）③9月8日18時・対関東学生選抜（東京体育館）④9月11日18時30分・対全日本（大阪市立中央体育館）⑤9月12日16時・対本田技研（四日市中央緑地公園体育館）⑥9月15日14時・対全熊本（熊本市体育館）⑦9月18日15時40分・対全日本（東京体育館）＝時刻はいずれもスローオフ予定時。

（本誌は次号で「スウェーデンナショナルチーム来日」を特集の予定です）

新たに大江（芝大）、近森（大崎）も復帰

オリンピック第3次候補決まる

日本協会は7月28日、オリンピックアジア予選（11月14～28日・東京ほか）をめざす最終候補選手ともいうべきオリンピック第3次候補選手19名を発表した。

それによると選手は第2次候補17名がそのまま選ばれたほか新たに大江隆夫（芝浦工大4年、1m72、岩国工高出）が加った。これで現役学生は4人となった。また、昨秋まで第1次候補選手としてナショナルチームに加っていた近森克彦選手（芝浦工大一大崎電気、25才、1m82）が11ケ月ぶりでカムバックしたのが目立つ。第3次候補選手は8月17日から四日市・津・東京で強化合宿、スウェーデン戦に出場する。

○……第3次候補選手……○

▽GK（3名）本田洋（大阪イーグルス）、下里敏彦（大崎電気）、大村久（全日体大）

▽FP（16名）近藤信行、近森克彦、飯田誠行、東一敏（以上大崎電気）、野田清、藤中憲二、中井武三（以上大同製鋼）、木野実、早川清孝（以上ワクナガ薬品）、花輪博（中央大）、平岡秀雄（東京教員ク）、斎藤光男（群馬教員）、有永修二（全立教）、氷海正行（日体大）、新実俊夫、大江隆夫（以上芝工大）

10月上旬に代表決定

日本協会ではオリンピックアジア予選出場選手の決定について協議を重ねてきたが、第3次候補選手の発表にともない、この19名を予定どおり9月4日からのスウェーデン戦（注・全日本は4試合）に登用したあと、10月上旬にアジア予選代表選手を発表することになった。

代表選手は16名で9月26日と10月3日に臨時全国理事会・評議会を東京に招集、承認をうける予定。

なお、第3次候補選手以外の選手をいわゆる〝2階級特進〟させて代表選手に選ぶことは現時点では考えられていない。

代表選手の強化合宿は10月8日～22日（名古屋）、25日～11月2日（甲府）、3日～15日（東京）の3回。

全日本選手の国内試合出場を規制……男女33選手

日本協会は大目標を前にした男女ナショナルプレイヤーの強化をより積極的、効果的に推進するため女子は7月12日から、男子は7月26日からいっさいの国内試合出場を規制すると発表した。期限は男子オリンピックアジア予選終了（11月28日）、女子は世界選手権帰国（12月下旬）までの予定。男子選手は10月10日までに16名に縮少されるがはずされた選手の取り扱いについては未定。

規制をうける選手は次のとおり

▼男子　別掲のオリンピック第3次候補選手全員（19名）

▼女子　枝尾、垂水、小原、渡辺米、三宅、島田（以上大洋デパート）、牧野、滝口、古佐原（以上東京重機）、三浦、寺尾（以上大崎電気）、三毛（田村紡）、北岡（愛知教員ク）＝以上14名

なお、全日本女子コーチの井薫氏（大洋デパート監督、熊本ク）も規制をうける。

訂正　本誌前号2頁、世界女子選手権代表決まるの記事中、流会の前代表で今回も選ばれたのは枝尾、小原とあるのは垂水、小原（ともに大洋デパート）の誤りでした。

日本、西独と開幕第1戦
世界女子の日程決まる

国際ハンドボール連盟(IHF)は6月30日バーゼル(スイス)で第4回世界女子選手権(12月11～19日・オランダ)の日程を発表した。それによると予選リーグA組に出場する日本は12月11日、ユトレヒトで西ドイツと大会のオープニングゲームを行い第2戦は12日ロッテルダムでデンマークと顔を合せる。

ベストシックスを2組に分けて争われる準決勝リーグの組み分けは1組が予選リーグA組1位、同B組2位、同C組1位の3ケ国、2組が予選リーグA組2位、同B組1位、同C組2位の3ケ国と発表された。

【予選リーグ日程】▽第1日(12月11日)日本―西ドイツ、ユーゴ―ノルウェー、ハンガリー―オランダ▽第2日(12月12日)日本―デンマーク、ノルウェー―ルーマニア、オランダ―東ドイツ▽第3日(12月13日)デンマーク―西ドイツ、ルーマニア―ユーゴ、東ドイツ―ハンガリー

【準決勝リーグ】12月15、16、17日

【7～9位決定リーグ】12月15、16、18日

【順位決定戦】▽5・6位決定戦 12月18日▽3・4位決定戦 12月19日

【決勝】12月19日

日本チーム(山田計監督ら17人)は11月上旬日本を出発、ヨーロッパ各地を転戦のあとオランダ入りする予定。

ミュンヘン全競技参加の予算請求 日本体協、文部省へ

日本体協は7月7日の理事会で47年度の国庫補助金概算要求額を決めた。総額は三億四千五万二千円でミュンヘンオリンピック大会八千四百五十万円が含まれている。ミュンヘンオリンピック派遣は全競技に参加するものと仮定、305人分が計算されている。

台湾、韓国審判講習に来日か

日本協会では台湾協会からの要望による両国審判講習会について検討を進めていたが、日程のたてこんだ今シーズンは特別に講習会を開くことは難しいとし、8月の全日本高校選手権前に松山で開く全国審判員講習会に同国審判員の希望があれば参加をうけいれることに決め連絡した。

また8月17日午後3時から鹿児島県隼人町体育館で開く「全日本教職員選手権審判員研修会」に韓国から7名の審判員が参加する予定。

五輪予選運営委が発足

日本協会ではこのほどオリンピックアジア予選運営委員会を発足させ委員長に荒川清美理事長を決めたほか常任委員5名を次のように発表した。8月中に常任委員会によって運営委員10～20名を推せんする予定。

▽委員長 荒川清美(理事長)▽常任委員 藤本強、渡辺慶寿、久田暁、杉山茂(以上常務理事)、山田哲雄(総務企画委員)

和歌山国体要項を発表

日本体協などはこのほど今秋10月24日から和歌山県下で開く第26回国体の大会要項を発表した。

ハンドボールは打田町で10月25日から29日まで行われるが一チームの選手登録数が11名に規制されているなど実施規程は例年とほとんど変わっていない。申しこみ締切りは9月22日。

なお、本誌85号(4月号)27頁で一般女子に参加できる学生は1チーム「2名」と報じましたが「3名以内」の誤りでした。お詫びして訂正いたします。

全日本総合は12月15日から 日本協会は今冬の第23回全日本総合選手権(東京体育館)の日程を12月15日から19日までの5日間に決めた。第1、第2日に男女予選トーナメント1、2回戦、第3～5日に男女決勝リーグを行う。

当初の予定では12月14日から5日間だったもの。なお、参加チームは今年から男子16、女子12チームに限定されている。

普及・総務部専門委員 日本協会普及部では専門委員会のうち本部推せん委員(中央委員)に宮本西嗣、小野基雄、大西武三の3氏を決めた。また総務企画部でも山田哲雄氏を委員に推した。

ルール無視し試合強行
NHK杯の選手起用ミスで

NHK杯大会第1日第3試合男子・全日本学生―全日本実業団戦で全日本学生が登録外選手を起用審判団はただちに全日本学生の〝没収負け〟を決めたが、大会本部はこの判定をくつがえし試合を強行、成立させるという異例の事態が起きた。これはあくまでもこの大会のこの試合に限って行なわれたことで、日本協会はこれが前例にならぬように周知徹底させるため通達をだした。

荒川理事長(大会委員長)の話 観客本位の大会でもあり審判団の〝正論〟をはねのけた。あくまで今回限りの措置だ。

全日本男女 順当の全勝優勝

第18回NHK杯全日本選抜（6月25日〜27日 東京体育館）

女子全日本学生2位に入る

初の選抜システムの大会、全日本に対して各チームの食い下がりが期待されたが、男子では、実業団選抜が見事な試合ぶりを見せ、最後まで全日本を苦しめた。女子は、全日本が圧倒的な力を見せ、全く他をよせつけず、見事なチーム振りを見せた。

男子

全日本学生 17（12－6、5－3）9 全日本実業団

得	【全日本実業団】		【学生】	得
0	西牧（三景）	GK	馬淵（立大）	0
0	柳川（大同製鋼）	GK	森友（大経大）	0
0	近森（大崎電気）	FP	松原（日体大）	1
5	北村（日本発条）	FP	佐藤（中大）	2
0	小野口（日本発条）	FP	佐々木（中大）	3
0	加藤（大同製鋼）	FP	明石（芝工大）	3
1	市原（湖永薬品）	FP	大江（芝工大）	6
2	喜田（三景）	FP	荒井（法大）	1
1	高梨（三景）	FP	松（日大）	0
0	内藤（三景）	FP	松井（同大）	0
0	植田（三景）	FP	川上（関学）	0
0	武井（三景）	FP	夏目（中京大）	0
9	（1）	7TM	（0）	17

両チームは、前半まつたく内容的にも互角に渡りあったが、後半に入って実業団チームのシュートミスちょっとしたパスミスにつけ込んで、着実に速攻より得点に結びつけた2・3点が結果的には勝敗の分岐となった。あとはやたらと学生チームの若さに溢れた攻守が目立った。両チーム共少ない練習量にも拘らず、まとまつたコンビネーションプレーを随所に展開出来たのはさすがである。

全日本 18（8－3、10－9）12 全日本教員選抜

得	【全日本】		【教員】	得
0	本田（イーグルス）	GK	高橋（埼玉教員）	0
0	下里（大崎電気）	GK	綿貫（東京教員）	0
3	飯田（大崎電気）	FP	北山（スワロー）	0
0	有永（東京海上）	FP	結城（埼玉教員）	0
3	斉藤）群馬教員）	FP	北井（埼玉教員）	4
3	木野（湧永薬品）	FP	高野（東京教員）	0
1	早川（〃）	FP	大西（東京教員）	2
1	中井（大同製鋼）	FP	福井（イーグルス）	2
0	新実（芝工大）	FP	樫塚（イーグルス）	1
4	藤中（大同製鋼）	FP	小山（東京教員）	3
0	花輪（中大）	FP	谷藤（岩手教員）	0
3	野田（大同製鋼）	FP	安達（イーグルス）	0
18	（1）	7MT	（1）	12

結果的には全日本男子が18－12で教職員選抜を力で降ろしたが、試合の内容は決して上出来とはいえず終止個人プレーに走り、作戦的なものがあまりみられなかった。一方教職員選抜も前半コンビが合わず、個人プレーの単発に終った。後半教職員選抜の健闘により白熱したが、顔ぶれのわりには盛上りのない試合であった。

開始直後エース北井が左45度より得意のシュートを決め先行。しかし全日本も3分速攻くずれを早川中央から決め同点。この後、全日本は7MT2本をはずし14分に斉藤がロングシュートを決めるまで両チーム約11分間決定打がなく、スローペースでボール廻しにはしり両チーム共なにか歯車が合わない感じ。

後半に入ると教職員選抜は北井がよくリードし、大西、樫塚、福井、とよく走り、ポストプレーのうまい小山と、みちがえるようにコンビがよくなって来た。全日本も木野がよくボールを廻すが、いぜんとして個人プレー気味。

開始2分に樫塚が決めれば飯田がすぐロングで返す。斉藤がロングを決めれば北井が返すといった具合に教職員選抜のうま味と全日本のごうかいなプレーで一進一退ゲームは白熱して来た。

しかし後半20分過ぎてスタミナの消もう激しい教職員選抜は動きがにぶくなり全日本は強引に4点連取し後半辛くも10－9と勝越しわずかに全日本の面目を保った。しかし、さすがの全日本も教職員選抜の老こうなプレーにペースを乱された感じである。（大塚）

全日本実業団 24（14－5、10－5）10 全日本教職員

得	【実業】		【教員】	得
0	西牧	GK	高橋	0
0	柳川	GK	綿貫	0
8	近森	FP	北山	0
0	北村	FP	結城	1
1	小野口	FP	北井	1
2	加藤	FP	大西	2
2	市原	FP	福井	3
3	喜田	FP	樫塚	2
7	高梨	FP	小山	0
0	内藤	FP	高田	0
0	山原	FP	河原崎	0
0	植田	FP	谷藤	1
24	（1）	7MT	（0）	10

前半2分教職員はゆっくりしたローリングオフェンスから左サイド樫塚がゴールを決め、好スタートをきった。しかし、5分中央よりカットインした近森に7MTを許し同点にされた。その後実業団はヨーロッパ帰りの近森を中心に喜田、高梨がよく走り、早い攻撃で連続ゲットし、前半は10－5で終了。後半になると、教職員はやや疲れがでたのか、デフェンスが甘くなり、また大西、福井らの力

強いシュートがゴールポストにあたる不運などもあり後半13分までに実業団に連続6得点された。15分をすぎるころになると教職員の動きもよくなり、両チームとも速攻の応酬で見ごたえのあるゲームを見せた。（吉川）

全日本 20（16―7, 4―3）10 全日本学生

得	【全日】		【学生】	得
0	本田	GK	馬渕	0
0	大村	GK	森友	0
3	飯田	FP	松原	1
4	有永	FP	佐藤	0
0	平岡	FP	佐々木	1
2	斉藤	FP	明石	3
6	木野	FP	大江	4
0	氷海	FP	荒井	0
0	東	FP	松	1
1	藤中	FP	川上	0
0	近藤	FP	中村	0
4	野田	FP	夏目	0
20	（2）	7MT	（1）	10

前半は、少ない得点で最少得点差の3・2で終了したのは、学生チームの消極的戦法にも依ると思うが、それよりもナショナルチームに攻守において精彩がなく、やたらと学生チームのペースに振り廻されたという印象が強かつた。

後半に入って学生チームは、張りつめた糸がぷっつり切れた様にスタート5分にして勝負のメドがつき、あとはワンサイドの試合経過となり、単独チームと違って、速成の混成チームの弱点を見せられた。スコアは当然の結果ではあるがナショナルチームに、なんとなく鋭さが感じられなかったのは私一人だったろうか。そしてやたらとナショナルチームの個人技が印象的であって、我々の期待する本来のスピード豊かなコンビネーションプレイが満きつ出来なかったのが残念であった。学生チームのけん斗は大いにたたえられてよいと思う。（勝）

全日本教職員 19（11―8, 8―7）15 全日本学生

得	【学生】		【教員】	得
0	馬渕	GK	高橋	0
0	森友	GK	綿貫	0
1	松原	FP	寺田	0
5	佐藤	FP	高野	5
2	佐々木	FP	大西	2
3	明石	FP	樫塚	2
3	大江	FP	井上	0
1	荒井	FP	高田	3
0	松	FP	畑	5
0	川上	FP	谷藤	2
0	中村	FP	浅野	0
0	夏目	FP	安達	0
15	（1）	7MT	（3）	19

畑、高野を中心とした教職員はよく走り、追いすがる全日本学生を19―15で下した。前半、教職員は、たてつづけに4点先取した。全日本学生は動きがかたかったが大江の7MTが決まり、ややかたさがとれた。中盤になりじりじり追い上げ、19分に6―6同点にしたが、ここで教職員は樫塚を出場させ、全日本学生の攻撃を止め11―8で前半を終了した。

後半開始早々全日本学生は荒井・佐々木の連続シュートで一点差に追い上げ一進一退のゲームがつづいた。しかし元気のない学生にくらべ教職員はよくボールをまわし、畑、谷藤の活躍で勝利を握った。（吉川）

全日本 16（11―5, 5―8）13 全日本実業団

得	【全日】		【実業】	得
0	本田	GK	西牧	0
0	大村	GK	柳川	0
0	飯田	FP	近森	1
1	有永	FP	北村	2
4	斉藤	FP	小野口	2
1	木野	FP	加藤	0
3	早川	FP	市原	0
4	中井	FP	喜田	3
0	新実	FP	高梨	2
1	東	FP	内藤	0
0	近藤	FP	植田	3
2	野田	FP	武井	0
16	（1）	7MT	（1）	13

お互いに気心の知れた同士の対戦であったが両チームともに立場を意識し好ゲームを見せてくれた

前半、昨日と同じ全日本の立ちあがりは良くなかった。一人の動きに組織的なフォローがなく、またリードされ乍らも攻撃の決定的なキメを欠いていた。全日本実業団選抜は3分高梨がよくとび出しゲット、好調なきっかけをつくり7分飯田退場のあと北村、植田、喜田が巧みに全日本のディフェンスをかわし加点し、15分には4―1とリードした。全日本は11分有永が左手でゲット、ばんかいをはかるべく盛んにシュートをこころみるが、GK柳川の好守にはばまれ、20分をすぎようやく早川、中井が決めたが、全日本実業団は喜田、北村らがステップから得点、小野口の7MTも手がたくとり、結局8―5で前半を終った。

後半にはいり全日本はようやく本来のスピードをとり戻し2分野田が7mスローをきめてから木野、斉藤があたり出し、後半11分

勝敗表

（男）	日	実	学	教	P	勝	分	負	得	失
①全日本	…	○	○	○	6	3	0	0	54	35
②実業団	●	…	●	○	2	1	0	2	46	43
③学　生	●	○	…	●	2	1	0	2	42	48
④教職員	●	●	○	…	2	1	0	2	41	57

（女）	日	実	関	東	P	勝	分	負	得	失
①全日本	…	○	○	○	6	3	0	0	51	10
②学　生	●	…	△	○	3	1	1	1	26	28
③関東実	●	△	…	○	3	1	1	1	21	34
④東海実	●	●	●	…	0	0	0	3	19	37

Pはポイント。同ポイントの場合は得失点差で順位を決定。△は引き分け。

女子は垂水，渡辺コンビ

得点王 男子は大江に輝やく

注目の得点王争いは男子が大江隆夫（全日本学生・芝浦工大），女子は垂水秀代，渡辺須和子（ともに全日本）の大洋デパートコンビが並んだ。日本協会主催の大会で得点王を表彰したのは初めて

得点5傑

男	女
①大江（学　生）13	①垂水（全日本）16
②木野（全日本）10	渡辺（全日本）16
高梨（実業団）10	③藤浪（東　海）7
④野田（全日本）9	④枝尾（全日本）5
斉藤（全日本）9	
近森（実業団）9	5位は4点で7人
明石（学　生）9	

ようやく9－9とタイに追いついた。その後全日本実業団選抜も近森、高梨がよくいついたが、全日本は本来の速攻が決まりだし斉藤・野田・中井らが続けてきめ、結局16－13で逃げきった。

女子

関東実業団 10（7－3、3－4）7 東海実業団

得	【関東】		【東海】	得
0	長岡（東京重機）	GK	佐藤（ブラザー）	0
0	和田（大崎電気）	GK	久保（田村紡）	0
1	鷺谷（東京重機）	FP	山田（ブラザー）	1
1	新島（大崎電気）	FP	藤浪（ブラザー）	2
1	八重樫（ビクター）	FP	金村（ブラザー）	1
1	村上（東京重機）	FP	藤田（ブラザー）	0
2	市川（東京重機）	FP	長塚（ブラザー）	0
1	阿保（ビクター）	FP	辻（田村紡）	1
0	鈴木（東京重機）	FP	広森（田村紡）	0
2	佐藤（大崎電気）	FP	山根（大洋紡）	2
1	岩井（大崎電気）	FP	平野（大洋紡）	0
0	谷沢（ビクター）	FP		
10	（1）	7MT	（0）	7

前半、まず関東実業団選抜は好調なスタートをきった。開始後2分とたたないうちに速攻を中心として、鷺谷、市川、八重樫がたて続けにきめゲームの主導権を握り、さらに10分すぎ、若手の新島、岩井らが追加点をあげ6－0と完全にリードした。

一方東海実業団選抜は相手の幸先の良いスタートに圧倒されたせいもあったか、ペースを失い鋭いタテへの動きがみられず、またサイドの攻撃の不足と、ラインクロスなどが重なって苦しんだ。19分に山田のゲットでようやく眼を開き、山根・藤浪が加点したが7－3と大きくリードされ前半を終った。

後半にはいり関東実業団選抜は早いタイミングと盛んにミドルシュートをはなつたがやや浮きはじめ、GK佐藤の好守にも会い得点とならず苦しくなって来た。その間には東海実業団選抜は動きの固さもとれ、藤浪・金村・山根と続いてきめ後半15分、8－6と、反撃にうつるかにみえたが、16分関東実業団選抜佐藤にきめられここでチャンスを失ってしまった。

全体的には、前半の関東実業団選抜の大量リードでゲーム展開の興味がそがれ、東海実業団選抜が前半のゲーム展開に策を講じ、また後半の追いあげに迫力がみられたら好試合が展開できたのではないかと思われる。（小林）

全日本 19（10－3、9－1）4 全日本学生

全日本学生は、3分、5分に得点を重ね好調な出足を切った。それに対し、全日本は混成チームを感じさせないまとまりをみせ、全員がよく走り、チームゲームの面白さをいかんなく発揮してくれた。特に全日本学生の闘志をもやした守りにもめげずボールをよく回し、チャンスをつくり、前半・後半を通じ着々得点を重ねるあたりさすがと思わせた。しいて難点といえば前半の中盤あたりに得点があげられなかったことであろう。作戦とかスタミナの問題もあろうかと思うが終始押しまくる攻撃を期待したいものである。

全日本は垂水、渡辺を中心に、前半は枝尾・米、後半は三宅－古佐原とゴールを決め相手を寄せつけなかつた。全日本学生は攻守とも永田を軸にゲームを展開したが実力を十二分に発揮することなく敗れたのは残念だった。（石野）

得	【全日本】		【学生】	得
0	小原（大洋デ）	GK	大工原（日体大）	0
0	北岡（愛知教員）	GK	戸谷（大体大）	0
2	枝尾（大洋デ）	FP	永田（日体大）	0
0	滝口（東京重機）	FP	小貫（日体大）	0
0	三宅（大洋デ）	FP	木村（日体大）	3
7	垂水（大洋デ）	FP	嶋田（日体大）	0
2	米（大洋デ）	FP	福田（日体大）	0
5	渡辺（大洋デ）	FP	堀江（東体大）	1
0	三浦（大崎電気）	FP	韮沢（教育大）	0
1	三毛（田村紡）	FP	岡（大体大）	0
2	古佐原（東京重機）	FP	玉岡（大体大）	0
0	島田（大洋デ）	FP	赤塚（日体大）	0
19	（4）	7MT	（2）	4

全日本学生 14（8－5、6－4）9 東海実業団

前半3分すぎ、東海実業団選抜はフリースローから金村があざやかに決め、好調を思わせたがその後パスミスが続き、全日本学生選抜小貫がよく走り3本たて続けにゲット、またポスト嶋田によくパスがとおり15分7－3と全日本学生選抜が先手をとった。東海実業団選抜もブラザートリオの藤浪、長塚、金村がセットをくみ、ミドルシュートでリードをとり戻そうとしたが結局8－5で前半が終った。

前半おわりごろの東海実業団選抜のたちなおりから、後半の盛りあがりが期待されたが、意に反してまとまらず8分広森が7MTをとった外は19分までゴールというありさまであった。一方全日本学生選抜は堀江、永田と得点を重ねた。後半17分13－6とほぼ大勢を決めた。その後東海実業団選抜は藤浪・長塚がよくがんばったがすでに遅く、結局14－9でゲームを終了した。（伊崎）

得	【学生】		【東海】	得
0	大工原	GK	佐藤	0
0	戸谷	GK	久保	0
3	永田	FF	山田	0
3	小貫	FF	藤浪	3
1	木村	FF	金村	2
3	嶋田	FF	長塚	2
1	福田	FF	藤田	0
2	堀江	FF	辻	1
0	韮沢	FF	広森	1
0	佐竹	FF	山根	0
0	宮田	FF	平野	0
1	赤塚	FF		
14	（1）	7MT	（1）	9

全日本 19（10－1、9－2）3 関東実業団

開始直後中央のフリースローを垂水が決めて好スタートを切った。つづいてトップの垂水がカット単身ドリブルでゴール、また全

【関東】	得		【全日】	得
長岡	0	GK	小原	0
和田	0	GK	北岡	0
鷲谷	0	FP	枝尾	2
新島	1	FP	三宅	0
八重樫	0	FP	垂水	6
村上	1	FP	米	1
市川	0	FP	渡辺	7
阿保	1	FP	牧野	2
松本	0	FP	三浦	0
佐藤	0	FP	三毛	0
岩井	0	FP	古佐原	1
富山	0	FP	島田	0
3	(1)	7MT	(3)	19

日本の速いパスワークと鋭い切込みに関東選抜のデフェンスがつききれず、7MTを渡辺が決め連続得点をあっという間にあげリードした。関東選抜はシュートが全部ミドルぎみであり、早いつぶしとシュートコースをGKの小原に読まれキャッチからスタート良くとび出した垂水、牧野、古佐原にロングのパスアウトされ次々とゴール。全日本はポスト、ミドルシュート、速攻と優位に動き得点を重ねた。関東選抜は22分30秒に全日本の油断したスキをつき、フリースローを村上が決めて10—1で前半を終る。

後半全日本は大洋勢でスタート枝尾、米、渡辺らの見事なコンビプレーを見せた。ブロックとダッシュ、パスのタイミングがぴったり合った見ごたえあるプレーが各所に見られた。それにまた、枝尾のフェント、滝口のロング、渡辺の巧シュート、垂水の切込みと、個人技もまじえ連続得点。関東選抜は後半になっても逃げの攻撃で鋭い切込みも出来ず、コンビプレーをするまでに至らずミスをくり返し動きもにぶって目立った変化は見られなかった。もう少し佐藤・村上らのロングを積極的に打たせ全日本のデフェンスを崩すことが出来なかったかと惜しまれる。

全日本に対し、これからの合宿練習により、一層の磨きを期待したい。

圧倒的な女子
明暗のナショナル
男子未調整露わす

▽…国内の公式大会に初出場した男女ナショナル。連日同チームの登場が焦点となり、ファンの興味もその一点に集ったのだが、女子が無敵の印象を強めたのに反し男子は際立った組織プレーを見せるでもなく未調整を露した。特に最終日の全日本実業団選抜戦は後半20分すぎにやっと主導権をつかむという苦戦を演じ「オリンピックは大丈夫か」という声もスタンドでは聞こえた。

▽…大会前から各チームのナショナルへの対抗意識は強く、異常な斗志ともいえるものさえ感じたが国内の精鋭を選りすぐってのチーム、少々の時間てこずっても最後は快勝と予想された。事実、村田監督、竹野コーチも「毎試合得点は20、失点は一ケタ」と自信にあふれていたのだが、第1戦（全日本教職員戦）で早くも公約違反？

▽…合宿疲れ、スウェーデン戦への調整段階、勝ってあたりまえという気迫の欠如など理由はいろいろあるだろうが、八千の観衆（3日間）はもう少しスカッとした試合ぶりを期待していたハズだ。

表彰式に照れくさそうな顔で並んだナショナルプレイヤーの奮起をスウェーデン戦にかけておこう。

▽…女子は圧倒の試合ぶりで時々たずなをしめたようなベンチワークさえのぞかせた。5チームからの混成、選手たちもはじめはすべてにとまどいがあったらしいが、その心配も日をおってうすれてきた感じ。敏感な乙女心をどうまとめあげていくかがコーチングスタッフの今後の課題だ。これさえ巧くのり切れば世界のベストフォアも夢ではない。 （S）

関東実業団 8（3—7 / 5—1）8 全日本学生

【学生】	得		【関東】	得
大工原	0	GK	長岡	0
戸谷	0	GK	和田	0
永田	0	FP	鷲谷	0
小貫	0	FP	新島	2
木村	0	FP	八重樫	0
嶋田	1	FP	村上	1
福田	3	FP	長谷川	1
堀江	1	FP	葛西	0
韮沢	1	FP	松本	2
佐竹	0	FP	蓮見	0
堀川	2	FP	山富	0
赤塚	0	FP	高野	2
8	(10)		(0)	8

学生はサイド攻撃を利用して得点をあげ、特に福田の攻撃は関東のデフェンスを大きく崩す因をなす見事なシュートが連続して出たのが前半の7—3とリードをした原因であろう。

後半になって関東選抜も走りが出てロングとサイド速攻とやっと多彩な攻撃ができ追いあげた。

関東選抜高野のミドル19分に決まって同点に追いつきその後両チーム共々決定打がなく引分けた。 （吉川）

全日本 13（6—3 / 7—0）3 東海実業団

【東海】	得		【全日】	得
佐藤	0	GK	小原	0
久保	0	GK	北岡	0
山田	0	FP	枝尾	1
藤浪	2	FP	滝口	0
金村	1	FP	三宅	0
藤田	0	FP	垂水	3
長塚	0	FP	米	1
辻	0	FP	渡辺	4
広森	0	FP	牧野	1
山根	0	FP	寺尾	1
平野	0	FP	古佐原	0
		FP	島田	1
3	(0)	7MT	(3)	13

全日本は先取点は奪われたが、すぐ取り返した。東海のディフェンスの好守もあり、全日本は歯車がやや狂ったような攻撃ぶり。

後半に入り、大洋勢でスタートここから全日本は活気に溢れ、多彩な攻撃を見せはじめた。東海の荒いディフェンスにややとまどう場面も二三見られたが、着々と加点。守備面の全日本はきわめて固く、東海を全くよせつけなかった。この三戦全日本の強さは不動であった。（岡村）

気力の全日本学生 4勝1分で帰国

第5回日韓学生

第5回日韓親善学生大会は全日本学生選抜軍(西敏郎団長ら19人)が訪韓して、7月4日から9日まで韓国の全州、ソウルの2都市で5試合が行われた。

全日本学生選抜軍は第1戦を引き分けた以外、第2戦以降は韓国側各チームの食い下りに苦しみながらも鮮やかに4連勝を飾った。このところ日韓交流といえば各部門とも歯切れのわるい成績がつづいていただけに、オリンピックアジア地域予選を前にして気力にあふれた全日本学生の好成績は国内球界に爽やかな話題をまいた。

なお、一行は10日午後5時13分羽田着の大韓航空機で元気に帰国した。本誌は次号で「遠征報告」を特集する予定。5回にわたる通算成績は日本側の28戦17勝9敗2分(7人制・22戦11勝9敗2分)

訪韓・全日本学生選抜軍

団長	西　敏郎	(全日本学連会長)	
総務	藤松　博	(東海学連理事長)	
監督	中沢　重夫	(全日本学連理事)	
コーチ	江名　英彦	(全日本学連技術部長)	
マネジャー	奥田　祥一	(全日本学連委員長・日体大4年)	
選手			
GK	馬渕　豊明	(立教大4年)	179cm
	森友　通夫	(大阪経大4年)	181
FP(主)	佐藤　要二	(中央大4年)	176
	氷海　正行	(日体大4年)	180
	松原　光三	(日体大4年)	180
	明石　雄次	(芝浦工大4年)	178
	大江　隆夫	(芝浦工大4年)	172
	荒井　正人	(法政大4年)	177
	松井　昭二	(同志社大4年)	174
	川上　貴司	(関学4年)	167
	佐々木健一	(中央大3年)	176
	川口　啓一	(名城大3年)	175
	中村　博之	(大阪体大2年)	178
	夏目　真治	(中京大2年)	180

緒戦、引き分けに終わる

第1戦・全円光大との試合は7月4日午後5時から全州高校体育館(38×19m)に約一千八百(満員)の観衆を集めて行われた。審判＝金本河、金昌勲。

全日本学生 15(8―3, 7―12)15 全円光大
引き分け

【円光】		得
GK	龍煥鱗	0
	具善根	0
FP	李鍾范	1
	劉周俊	2
	鄭方克	2
	徐炳煥	1
	趙玄喆	0
	徐太植	0
	金弘植	2
	金在容	4
	牟鍾起	1
	朴延洙	2
	(1)	15

【日本】		得
GK	馬淵	0
	森友	0
FP	氷海	1
	松原	3
	佐藤	2
	佐々木	3
	明石	1
	大江	4
	荒井	1
	川上	0
	中村	0
	川口	0
	(0)	15

序盤からリード奪う

第2戦・円光大との試合は6日午後3時10分からソウル市の奨忠体育館(33×18m)に約千の観衆を集めて行われた。審判＝崔源倍、李峰一。

全日本学生 21(9―4, 12―4)8 円光大

【円光】		得
GK	龍煥鱗	0
	具善根	0
FP	李鍾范	1
	劉周俊	2
	金在容	1
	鄭方克	0
	徐炳煥	1
	金弘植	1
	朴延洙	2
	趙玄喆	0
	牟鍾起	0
	7MT (2)	8

【日本】		得
GK	森友	0
	馬淵	0
FP	氷海	4
	松原	2
	佐藤	3
	川上	3
	佐々木	4
	大江	3
	荒井	0
	中村	2
	夏目	0
	明石	0
		21

終盤、3点連取で逆転勝ち

第3戦・慶熙大との試合は7日12時30分から奨忠体育館に約二千三百の観衆を集めて行われた。審判＝金昌勲、朴千祚

全日本学生 17(4―8, 13―8)16 慶熙大

【慶熙】		得
GK	金昌鉉	0
	黄亨求	0
FP	張正穆	0
	黄致範	3
	金允洙	0
	李文植	1
	金栄会	2
	柳在忠	3
	全福寿	5
	李寛鎬	0
	朴鍾甲	2
	金甲経	0
	7MT (1)	16

【日本】		得
GK	森友	0
	馬淵	0
FP	佐藤	0
	佐々木	3
	明石	0
	氷海	4
	荒井	2
	川上	0
	大江	4
	中村	2
	松原	2
	松井	0
	(1)	17

明石が逆転、大江ダメ押し

第4戦・成均館大との試合は8日午後3時10分から奨忠体育館に約三千の観衆を集めて行われた。審判＝成鍾元、李庸悳

全日本学生 15(4―6, 11―7)13 成均館大

【成均】		得
GK	李承宰	0
FP	李建祚	0
	章裁奉	1
	田相勲	0
	金永年	1
	孫泰烈	3
	安義洙	2
	金虎吉	1
	朴鍾泰	5
	7MT (1)	13

【日本】		得
GK	森友	0
	馬淵	0
FP	氷海	3
	荒井	4
	佐々木	3
	松原	0
	大江	2
	佐藤	1
	明石	2
	松井	0
	夏目	0
	中村	0
	(1)	15

選抜軍初激突 日本、最終戦も飾る

最終戦・韓国学生選抜軍との試合は9日午後3時10分から奨忠体育館に約三千五百の観衆を集めて行われた。両国学生オールスターズの対戦は史上初。なお、この試合は「第2回西敏郎杯争奪戦」が兼ねられ、西杯は2年連続して日本側の獲得するところとなった。審判＝白武男、金正秀。

全日本学生 15(9―10, 6―4)14 韓国学生選抜

【韓国学生選抜】		得
GK	金昌鉉(慶　熙・173)	0
	金永年(成均館・180)	0
FP	黄致範(慶　熙・181)	2
	金弘植(円　光・178)	4
	金栄会(慶　熙・173)	0
	李鍾范(円　光・173)	3
	金在容(円　光・173)	0
	劉周俊(円　光・178)	0
	秋章云(朝鮮大・171)	4
	牟鍾起(円　光・170)	1
	金虎吉(成均館・172)	0
	安真煥(朝鮮大・168)	0
	(2)	14

【日本】		得
GK	馬淵	0
	森友	0
FP	佐藤	4
	氷海	4
	荒井	1
	川上	1
	松原	1
	大江	2
	明石	2
	松井	0
	中村	0
	夏目	0
	(1) 7MT	15

(韓国メンバーの数字は身長)

西団長の話　苦しい条件のなかで選手たちは実によくやってくれた。試合場や選手村(宿舎)でのマナーも好感をもたれ〝親善〟の成果は立派に果たせた。

韓国球界のオリンピック予選に対する意欲はなみならぬものがあり各チームともなかなか手強い。交流のたびに問題となる審判員の判定も二、三のとまどいはあったが特に大きな差異は感じなかった。

佐藤主将の話　どの試合も後半25分以降に〝勝負〟のかかる激戦だった。4勝1分の好成績をあげられたのはチームワークと気力によるものだと思う。韓国チームの体格はさほど大きくないがセットから強引なプレーを見せ粘りもある。速攻はほとんどみられない。単独チームの実力は全日本学生のベストフォアぐらいではないか。成均館大と韓国学生選抜は特に秀れていた。

プラスチックの総合メーカー
メッキは金属だけでは……
……ありません!
精密金型設計・製作
マイクロプラスチック成型
プラスチックメッキ
株式会社 宗形製作所
本　　　社　大阪府高槻市辻子241番地　TEL 高槻(0726) 75−5551
東　北　本　社　福島県福島市清水町字中谷地48番地　TEL 福島(02452)3−2812・2911
宗形工業化学株式会社　大阪府高槻市辻子252番地の1　TEL 高槻(0726) 75−5767〜8
京都金型製作株式会社　京都市南区上鳥羽花名町19番地　TEL 京都(075)68−9701

大洋デパート堂々の4連勝飾る

全日本女子実業団　白花醸造（韓国特別参加）3位に食いこむ

第12回全日本女子実業団選手権（日本女子実業団リーグ）は7月7日から11日までの5日間熊本市体育館で行われ予想どおり地元の強豪・大洋デパートが特別参加の韓国ナンバーワン白花醸造をはじめ国内最上位の各チームを寄せつけず全勝、4年連続5回目の優勝を飾るとともに昭和43年8月の第20回全日本総合選手権以来12連続全国大会制覇をとげた。

なお、男子選手権は7月21日から名古屋市で開かれ大崎電気が優勝した
（男子詳報は次号）

白花ら決勝リーグへ
田村紡、日本ビクター降す

○…予選リーグ…○

▽A組

ブラザー工業（愛知）12（5—4、7—2）6 東北ムネカタ（福島）

大洋デパート（熊本）25（11—2、14—2）4 東北ムネカタ

大洋デパート 17（11—1、6—4）5 ブラザー工業

（この記録は決勝リーグに適用）

▽B組

白花醸造（韓国）19（9—2、10—5）7 大洋紡（岐阜）

東京重機（東京）19（11—2、8—6）8 大洋紡

東京重機 16（7—7、9—5）12 白花醸造

（この記録は決勝リーグに適用）

▽C組

田村紡（三重）12（3—6、9—5）11 日本ビクター（茨城）

大崎電気（埼玉）13（8—6、5—5）11 日本ビクター

大崎電気 8（5—4、3—3）7 田村紡

（この記録は決勝リーグに適用）

□……各組順当な結果のなかでC組田村紡×日本ビクターは不利を伝えられた田村紡が気力の逆転勝ちで若いビクターを制したのは注目される。この組は3試合ともイキが抜けずせりあいがつづいた。

田村×ビクターは前半のリードを後半開始直後から田村が良く追い、32分に追いつき、40分には11—8と逆にリード、これをビクターが追ったが追いきれなかった。

大崎×ビクターは前半2点のリードを大崎が守りきり、ビクターは期待されながら、予選リーグで姿を消す結果となった。

大洋デパートは文句なしの試合ぶり。レギュラーの世界選手権組につづく若手も伸びている。2試合で10点をたたきだした蔵田のプレーは特に目立った。

□……国内選手権に初登場した外国チーム・白花醸造（韓国）。2月の来日時よりはっきりと向上のあとを示し、特に攻撃力に鋭さが加った。東京重機戦も前半はまったく互角だったが、後半守りの乱れをつかれたのは惜しまれる。第1日にして「日本の女子もウカウカできない」という声がコートサイドに広がった。

○…決勝リーグ…○

大崎、ブラザーに快勝

大崎電気 14（7—3、7—2）5 ブラザー工業

スタートより大崎は早いボール廻しから良く得点を重ね、ブラザーを圧倒した。後半も同様の経過で、寺尾、三浦（全日本）を軸とした攻撃でブラザーに快勝した。ブラザーには、今一歩の努力がほしいところ

田村紡　重機に惜敗

東京重機 11（7—6、4—3）9 田村紡

試合開始直後から、激しい攻防をくりかえし、重機は古佐原（全日本）、村上、田村は金田と三毛（全日本）の7MTでまったく互角。後半に入っても、先年は常に重機がとりながら、田村がこれに

歴代優勝チーム

①愛知紡（認定優勝）
②愛知紡
③愛知紡
④レナウン東京
⑤大崎電気
⑥大洋デパート
⑦田村紡
⑧田村紡
⑨大洋デパート
⑩大洋デパート
⑪大洋デパート
⑫大洋デパート

決勝リーグ勝敗表

	洋	重	白	大	田	ブ	P	勝	負
①大洋デ	…	○	○	○	○	（○）	10	5	0
②東京重	●	…	（○）	○	○	○	8	4	1
③白花醸（韓国・特別参加）	●	（●）	…	○	○	○	6	3	2
④大崎電	●	●	●	…	（○）	○	4	2	3
⑤田村紡	●	●	●	（●）	…	○	2	1	4
⑥ブラザ	（●）	●	●	●	●	…	0	0	5

（　）内は予選リーグの勝敗
Pはポイント

⑦日本ビクター　⑧東北ムネカタ　⑨大洋紡

5強個人得点

【大洋デ】	ブ	白	崎	田	東
K 小原	0	0	1	0	0
森山	0	0	0	0	0
F 垂水	1	4	3	1	2
米	2	0	1	1	0
渡辺	5	5	7	7	5
三宅	0	0	0	1	2
島田	4	1	1	3	2
枝尾	3	2	1	2	3
小林	0	0	0	0	0
蔵田	2	0	1	1	1
村中	0	0	0	1	0
剱	0	0	0	0	0
	17	12	15	17	15

【東京重機】	白	田	ブ	崎	洋
K 長岡	0	0	0	0	0
F 滝口	4	2	1	4	1
鷲谷	4	0	1	1	0
牧野	2	0	2	6	2
古佐原	2	5	1	0	0
村上	4	3	1	1	0
市川	0	1	0	1	1
松本	0	0	0	0	0
葛西	0	0	0	0	1
鈴木	0	0	0	0	1
市山	0	×	×	0	×
荒木	×	0	×	×	0
小沢	×	×	0	×	×
	16	11	6	13	6

【大崎電気】	田	ブ	洋	東	白
K 和田	0	0	0	0	0
西村	0	0	0	0	0
F 長谷川	1	0	0	0	1
新島	2	0	0	2	1
寺尾	4	6	3	1	0
三浦	0	4	0	4	2
岩井	0	2	0	0	4
佐藤	1	2	2	2	4
木村	0	0	0	0	0
	8	14	5	9	12

【田村紡】	崎	東	白	洋	ブ
K 久保	0	0	0	0	0
F 三毛	5	4	2	1	2
金田	0	2	2	0	2
久保田	0	1	1	0	2
辻	1	0	1	3	6
広森	0	1	0	0	0
紀平	0	0	0	0	0
沖	0	0	0	2	0
沼田	1	1	1	1	3
若林	0	0	0	0	0
	7	9	7	7	15

【ブラザー】	洋	崎	東	白	田
K 佐藤	0	0	0	0	0
田之上	0	0	0	0	0
F 山田	0	0	1	1	1
藤浪	0	0	0	1	0
金村	1	0	1	1	2
藤田	1	0	1	0	1
長塚	2	1	0	1	1
森	0	0	0	0	0
原川	0	0	0	1	3
平	1	2	4	3	0
鳥居	0	1	1	1	1
森本	0	1	0	0	1
	5	5	4	9	10

追いすがる好試合を展開したが、重機の速攻が試合を決めた。

大洋、白花の反撃かわす

大洋デパート 12（6－3／6－3）6 白花醸造

白花は大洋の速攻に対し、すばやい帰陣とGKの好守でこれに対し、予想以上の善戦。前半の大洋は速攻も出ず、セットプレーも失敗が多く、歯車がかみあわない。白花の守と大洋の攻という形で試合は進んだ。

白花の攻撃は決め手がなく、横パスが多く、得点は7MTによるものが半数を占めた。

後半も同様の経過をたどり、白花は良く守ったが、攻撃に決め手のないまま、大洋にズルズルとリードされ、善戦ながらも、まだかなり力の差のあることを認めざるを得ない。今後の精進を期待したい。

GK小原（大洋）が巧みに得点

大洋デパート 15（7－4／8－1）5 大崎電気

大洋の見事な攻守のみがめだった試合。前半大崎は鋭い縦のきりこみから良く4点をあげたが、後半は大洋の固い守りを崩せず1点にとどまった。

一方の大洋は、前半は渡辺（全日本）の鋭いシュートを中心に得点を重ね、後半に入ると、大崎にミドルの決手がないと見るや一線防御をしき大崎の攻撃を完全に封じこむとともに、コンビネーションプレーにも多彩なところを見せ、更にはGK小原（全日本）の機を見るに敏なキーパーボールからの直接得点という快プレーもおりまぜ一方的に快勝した。

白花、田村紡を押し切る

白花醸造 14（9－6／5－1）7 田村紡

白花は試合ごとに強さを増し、これまでなかった縦の動きが出てきた。ワンフェイントを入れてからのミドルシュートが良く決まり前半9－6とリード。後半に入ると田村は前半の劣勢をくつがえすべく、積極的な速攻を出したが、ミスも多く、また早い白花の帰陣につぶされ、1点にとどまった。逆に白花はGKの好守からの好送球による速攻が決り、予想外の大差で田村を降し、Aクラス突入の基礎を作った。

ブラザーの健斗及ばず

東京重機 6（4－3／2－1）4 ブラザー工業

両チームとも、気力充実の好試合であった。スタートより、速攻セットプレーをおりまぜ、観衆を湧かせるに充分な試合ぶりであった。特に観衆を熱狂させたのは、両チームのGKの好守である。得点の割には、非常に内容の濃いゲームであった。

好調な白花攻撃陣

白花醸造 16（8－6／8－3）9 ブラザー工業

両チームとも連戦の疲れが見えた。しかし、白花に常に先手をとり、速攻、ミドル、ポストと多彩な攻撃で着々と加点し、ブラザーの攻撃は大量点にせずくいとめ、後半もブラザーにつけいるスキを与えず、快勝した。白花の攻撃力は日を追って冴えてくる。

大洋デパート前半もたつく

大洋デパート 17（7－5／10－2）7 田村紡

前半の田村は大洋の守備の乱れを良くつき、一時はリードを奪ったが、後半は大洋の強襲をささえきれず、固い守備陣をも崩すことができず、大敗してしまった。

大崎の反撃とどかず

東京重機 13（9－2／4－7）9 大崎電気

重機は前半早い動きで牧野（全日本）を中心に得点を重ね、大勢を決した。後半の大崎は見事にたちなおり、良く追撃したが、前半の7点差は余りにも大きかった。

田村紡『東海』の雪じょく

田村紡 15（8－6／7－4）10 ブラザー工業

キビキビした試合態度で両チームとも対戦したが、ブラザーにミスが多く、しかも、ノーマークのシュートミスが多く、これが田村に及ばなかった原因である。田村は三毛の意欲的なプレーで勝敗を握った。

白花 大崎破りA級確保

白花醸造 16（10－7／6－5）12 大崎電気

大崎は寺尾を負傷で欠き、最悪の事態となったが、気力で良くカバーしたが、白花の攻撃がより上廻り、10－7 前半終了。後半も

【白花醸造】	崎	ブ	田	洋	東
K 李 太妊	0	0	0	0	0
申 恵泳	0	0	0	0	0
F 安 康淑	0	0	0	0	×
黄 月暎	×	×	×	×	0
尹 英全	0	1	3	2	5
李 純玩	5	8	4	1	5
俞 廣淑	3	5	1	2	1
鄭 淳福	1	1	0	0	1
尹 顕淑	1	0	0	0	0
権 美子	2	0	3	0	0
卓 英子	0	0	0	0	0
高 善龍	1	1	0	1	0
朴 光子	3	0	3	0	0
	16	16	14	6	12

白花はポストプレーを中心にして良く速攻をおりまぜ、着々と加点し、点差を開き、大崎をふりきり見事に三位入賞した。

東京重機 前半の失点たたる

大洋デパート 15（8－1、7－5）6 東京重機

立ちあがりから大洋は早いパスワークから、重機のディフェンスをゆさぶり、4連続得点、その後も、攻撃の手をゆるめず、また4連続得点と、その間の重機の攻撃を僅か1点に押え、前半8－1と圧倒的優位にたった。

後半も開始早々に3点を加え、完全に四年連続優勝を決定づけてしまい、その後の重機の反撃も4点に押えて、完全にその実力のほどを示した。

7位に辛くも日本ビクター

○…7～9位決定リーグ…○

東北ムネカタ 10（2－5、8－3）8 大洋紡

日本ビクター 23（13－1、10－3）4 大洋紡

日本ビクター 7（2－4、5－3）7 東北ムネカタ
引き分け

【順位】⑦日本ビクター1勝1分（得失点差19）⑧東北ムネカタ1勝1分（2）⑨大洋紡2敗

表彰選手

○ベストセブン○

K 小原　名苗（大洋デ）
F 枝尾　清女（大洋デ）
垂水　秀代（大洋デ）
渡辺須和子（大洋デ）
牧野　涼子（東京重機）
寺尾由美子（大崎電気）
三毛　直子（田村紡）

○特別優秀選手○

李　純玩（白花醸造）
俞　廣淑（白花醸造）

○最多得点選手○

渡辺須和子　31点

白花醸造（韓国）の特別参加について

全日本実連理事長　田中滋章

予想通り大洋デパートの圧勝で終った日本実業団女子リーグであったが、当初編集部の予想（88号）といい、私個人としても良くて4位と思っていた韓国の白花醸造チームが3位になったことに問題を提起してみたい。

昨年初めてハンドボールチームが出来、2月に来日した折りには全くの新チームで初の試合を日本で行ない2勝1分2敗で帰国したその後韓国では他にチームが無いため春季選手権は開かれず、種別選手権も梨花大来日のため流れてしまい、たまたま日本から帰国してからの最初の試合となってしまった。

この間5月中旬から新らしい選手が5名加わり僅か一ケ月余りの練習を中学男子相手に行なった。前回のレギュラーから鄭淳福と安庚淑（李鉉順）が李純玩と尹永全に代っただけで作戦面においてもこの2人がロングを打つようになっただけで相変らずサイドから攻撃もジャンプ力もなく、その上センスのいい権美子・朴光子の両選手が全く不調のままこの成績を挙げたことに注目したい。勿論大崎電気は前日の負傷で寺尾が出場出来なかったこともあるが、2月に対戦した各チームがことごとく敗れたことは日本のハンドボール関係者の一人として残念でならない。

三千万の人口から一チームしかないナショナルのようなチームだから強いのは当り前と言われるかも知れないが高校を卒業したばかりの選手がほとんどなのだから驚く。

日本の高校女子のレベルが低いのか、それとも韓国のそれが強いのか、女子高校交流の実現を一日も早くしたいものと思う。

白花の3位に対し各女子チームの監督、コーチがいかに受けとめているか分らないが強ければ強い程私はこのチームを何度でも呼ぼうと思う。韓国のチームを強くするため協力する必要はないという声も当然起り得ると思うが、日本であれ韓国或いは台湾であってもアジアでのハンドボール発展のため、どこまでも協力してゆく姿を私は代える気はない。

将来一時的にはアジア予選に敗れることも考えられないではないが、ヨーロッパで生れ、アジアに種が少しずつまかれている現在、あくまでもヨーロッパに追いつけ追い越せの合言葉で日本を先頭に韓国や台湾までがヨーロッパチームに対抗できるよう頑張りたいものと思う。そして世界選手権にしろオリンピックにしろアジアから一チームということでなく何チームでも送り込むことが出来るような私の夢は果てしない。私が白花のようなチームを呼ばなくなるのは日本において問題にするに足らなくなった時であり、白花には失礼だが日本の各チームは奮起して明年には有無をいわさずたたきのめして欲しい気持で一杯である。これが両国のハンドボール発展のためと信ずるからでもある。

ワクナガ薬品

韓国遠征リポート

（6月5日〜12日・全3戦）

韓国球界に触れて

湧永儀助

今回の訪韓につきまして協会幹部の方に御心配をお掛けしました事を遺憾に存じます。

大阪協会はじめ多数の関係者の方より御厚意溢れる励ましを、非常に心強く感じました。我々のチームが訪韓しました最大の理由は韓国ハンドボールの現状を知りたいと言う事です。

どんな事でもそうですが相手を知らない程不幸な事はないと思います。私は私の方の木野、早川両君より既に対韓国戦の不安というものを聞いております。

韓国の特色

バスケットあがりの選手が多い。

フットワーク、パスワークが良い。

ボールに対する執着心がある。

キーパーは非常に上手である。

シュートにはスピードがない。

小技が多い。

日本のハンドボールとの違い

あまりスピードがない。

ボールが極端に悪い。（ゴム製である）

身長があまり高くなく。小柄。

スカイプレイが非常に多い。

最後に日本は徹底したフォーメーションで攻るとよい。余り体が大きいのを集めるより、大きなプレイヤー、小柄なプレイヤーで構成する方が良いのではないか。

韓国は出国するのに非常に難しい為、特に若い者が出国出来るのは、スポーツをしている者のみ、そういう理由から非常に意気込んで来ると思われる。（ワクナガ薬品監督・関学出）

見られる西独の影響

木野　実

韓国のハンドボールは、昨年あたりからドイツのトレーナーによる指導のためか、かなりドイツの流れを受けている様で、選手の中にもそれをハッキリ云っている人もいた。一つの特徴と云われていたスカイプレーの、成功の確率は低かった。

第一戦　一点目スカイプレーで決められ唖然としたが、後は動きをよんで封じた。東洋公社は、ボール廻しにスピードがなく単調な攻めだった。しかしペースを守り速攻と遅攻をうまく切り換えていた。速攻はいけると思えば、段をつくり成功させていた。GKは判断力がよく前に出て再々好捕された。我々は第一戦という緊張感、長いセレモニー、軽いボールのためなかなか調子が出なかったが、後半動きがよくなり振り切った。

第二戦は、大田の忠武体育館(38m×20m)で一万余の大観衆の中で昨年、一昨年のチャンピオンチーム特殊金属(株)と対戦した。少し余裕がでてきたため、自己のペースで有利にすすめられた。国際ゲームの場合、とくに異国の地では、早く得点し、常にリードを奪う必要はあると思う。特殊金属は、身長はさほど大きくはないがまとまりがあり、組織的なプレーが目についた。彼らも我々を意識し堅くなっていた様子だった。

我々もこの一戦だけはという執念が実り16対10で快勝することが出来たが一万人の大歓声でベンチとの連絡がしばしば消された。

第三戦は、全ソウルとの間で行われ、8千人の観衆の中には一、二戦のナショナル選手がずらりと並んで観戦していた。プログラムには、一応慶熙大学と書いてあるが話によると今年のチャンピオンチームとのこと。

このゲーム2点連取されたというあせりと熱気ですっかり相手のペースにはまり苦戦。相手チームは、個人がボールテクニックに秀れシュートをおもい切って打っていた。DF面に関しては、フットワークの良さが目についた。

遠征にあたりいろいろな意見を賜わりましたが、この遠征が大成功で意義ある遠征であったことをつけ加えておきます。（ワクナガ薬品主将・ナショナルプレイヤーFP・立教大出）

ワクナガ薬品遠征成績

	得点	前半	後半	得点	
ワクナガ薬品	17	6―6	11―5	11	東洋公社
ワクナガ薬品	16	6―5	10―5	10	特殊金属
全慶熙大	14	7―3	7―7	10	ワクナガ薬品

【個人成績】

	氏名	東	特	慶
F	市原	0	5	0
	森	2	2	2
	高橋	8	3	5
	戸田	1	3	1
	松井	0	0	0
	藤井	0	0	0
	阿波	…	0	0
	菅	…	…	0
	木野	3	3	0
	早川	3	0	2
K	今井	0	0	0
		17	16	10

“日本優位”自信もつ

早川清孝

三試合を通じ私が感じた事を結論から申しますと、日本のレベルは相手韓国に較べ高度であり、韓国と対戦した場合、予程の事がない限り不覚をとる事はないというのが私の実感です。

我々が対戦した三ティームには韓国のナショナルティームのメンバーが十五、六名いたと思われますが、彼等を対照にして韓国のハンドボールを日本と比較し、気付いた事を記してみますと、監督のまとめにほとんどつくされていますが、特に規格にはまったプレーをする速攻する事は殆んどない。型通りのフォーメーションを二、三持っており、何回となく繰返す。力のハンドボールでなくテクニックに走りすぎる。ディフェンスは非常にきれい、試合運びは非常にスローテンポであり、一回の攻撃にかなりの時間をかける。ルールの上ではオーバーステップの見解サイドラインより三十度のゴールエリア内にはどんな場合でも入る事はできない等、細かい点については更に細かく打合せする必要があるのではないでしょうか。

また、日本のナショナルティームは非常に大型選手が多いため大型選手にありがちなプレーを展開する懸念があるが、韓国には個人技に秀れた選手が少い点から考え、小柄で機敏なチャンスメーカーとして優秀な選手の起用がより安全な勝利への道であると考えます。

（ナショナルプレイヤー、FP、日体大出）

合織糸・合織混紡糸

田村紡績株式会社

社長 田 村 正 衛

四日市市東茂福町10—17
TEL 四日市 6—2156（代表）
郵便番号 512

全日本高校選手権展望

全国1,100余校の中から選ばれた男子54，女子53校——第22回全日本高校選手権（インター・ハイスクール）は8月2日から7日までの6日間，愛媛県松山市松山北高球技場で炎天下の熱戦譜をつづる．実力伯仲，予断を許さぬ接戦模様のなかから有力校を探ってみよう。

嶋田新太郎
（日本協会常務理事・大会審判長）

佐賀農（佐賀）の参加によって高体連永年の宿願である全都道府県からの代表出場が男子でまず成った。残るは女子の鳥取県代表である。

加盟校もうなぎ昇りだ。それだけに本大会へ駒を進めた各校の力倆は質的にも“史上最高”が期待できる。特に今年はオリンピックアジア予選の年、これまでにない盛りあがりを感じさせている。

初出場校は男子13、女子13校の“新記録”。

一方、古参組では男女を通じて静岡城北（静岡）の20回が光る。

連続出場では女子の徳山（山口）が「14年」と快記録を伸ばした。男子では松江工（島根）の8年がトップ。女子の栃木予選で13年連続出場を狙っていた栃木女が敗退したのは惜しまれる。

なお、松山市での開催は第8回（昭32）以来14年ぶり2回目のこと

男子

新居浜工めぐる古豪各校

Aゾーンの注目はやはり2連覇を狙う新居浜工（愛媛）に集ろう。新チーム結成後の練習量も充分と伝えられ、それを裏付けるように四国高校に優勝、元気なところを示した。学校関係者は去年優勝した時に「1年早かったですよ」といっていた。地元で開く今夏に照準を合わせていたからだ。今年への意気ごみのほどがうかがえよう。しかし連覇への道に立ちふさがる各校の実力も侮れない。

大型の桜台(愛知)、粘りのある麻生(茨城)、中国2位の天城（岡山)、添上（奈良）らの名門校はたがいに星をつぶし合いながらも新居浜工を倒そうと意欲充分である。また、法政二(神奈川)、聖光学院工(福島)、清水（千葉）のまとまりも捨てがたい。

桜台—麻生戦は優勝争いに影響する1回戦屈指の好カード

ひしめく4チャンピオン

いかに抽せんによる“いたずら”とはいえ湯沢(秋田＝東北)、岩国工(山口＝中国)、小杉（富山＝北信越)、中大附属（東京＝関東）と4ブロックの優勝校が、Bゾーンの中にひしめき合うとは……。

しかもこの強豪に国体を控える県和歌山商（和歌山)、鹿児島工(鹿児島)、来年のインター・ハイ開催地東根工（山形）と積極的な強化にはげむダークホース3校がからむというのだから各試合まったく息がぬけない。

加納(岐阜)、川口工（埼玉）もブロック大会では上位に進んでおり安定した力を誇っている。金沢二水（石川）は20年ぶりの代表。

このゾーンから優勝校が出そうだ、という声も充分に肯ける。

名門と新進校が並ぶ

Cゾーンは名門と新鋭が並んだ東海で久しぶりに優勝した中京（愛知）と東北2位の盛岡商（岩手）の2校が一歩リードしているようだが修道(広島)、清水商（静岡)、古川工（宮城)、兵庫工（兵庫）らも上位を狙うチーム力を充分備えている。

初出場組では部創立24年目で宿願を果たした慶応（神奈川）のシャープな攻守と、激戦地を勝ち抜いた九州1位の熊本一工（熊本）が目立つ。

ダークホースが揃う

惑星視されるチームが並んだのはDゾーン。

17年ぶりに登場した鳳（大阪）を追って地力をつけた国学院栃木（栃木）と佐世保北(長崎)、名門富岡を降して出場の前橋工(群馬)北信越2位の上田(長野)、このほか那覇商(沖縄)、塩山商(山梨)、函館有斗(北海道)らも力がある。地元の松山東（愛媛）は県大会で新居浜工と前半せりあったあと5—8と惜敗しているが元気なだけに面白い存在となろう。

女子

未知数、水海道二の戦力

第1シードに水海道二（茨城）のすわるAゾーン。もちろん前年優勝の同校の試合ぶりがまず焦点となるが、実のところ資料不足。6月の関東大会にさえ顔を見せておらず果してどの程度の力なのか、関係者も新たな興味でみつめている。

名門地区大阪から初名乗りをあげた初芝。連勝の小禄に代って登場の浦添(沖縄)、古賀(福岡)、横浜東(神奈川)、花巻北(岩手)、暁（三重）らの初出場組、試合運びの巧い小平（東京）らがどう調子の波をつかむか、水海道二の行く手は緒戦から楽観を許さない。

実力伯仲、接戦が連続か

Bゾーンは東北でトップの座をつづける秋田和洋（秋田）・関東

韓国代表は東亜高

8月22・24日に日韓高校

第6回日韓高校交流は第4回日韓高校スポーツ交歓競技会の一種目として8月22、24日の2日間東京・駒沢屋内球技場で行われるがこのほど韓国代表校として東亜高の来日が決まった。日本側チームは22日12時30分から第22回全日本高校選手権優勝校、24日は東京都代表校が対戦する。

来日する東亜高とは昨年新居浜工（愛媛）がソウルで対戦（16—4で東亜高）している。これまでの日韓高校通算成績は日本側の18戦7勝9敗2分（うち7人制14戦4勝9敗1分）。韓国高校チームの来日は38年(選抜)、44年（朝鮮大附属高）につづいて3回目。

なお、22日の試合は同日午後3時30分からNHK教育TVで全国放送（中継録画）される予定。

1位の国学院栃木を筆頭に熊本市立（熊本）、深谷女（埼玉）、有磯（富山）、新居浜市商（愛媛）らが追い、明徳商（京都）、加納（岐阜）がからむ。

国学院が栃木女を破った自信でどのような試合ぶりを見せるか。岩瀬農長沼分校（福島）の健斗も注目したい。いずれにせよ実力伯仲、接戦の連続が予想される。

上位狙う静岡城北ら

Cゾーンはもつれそうだ。静岡城北（静岡＝東海）、土居（愛媛＝四国）とブロック優勝両校が順当なら3回戦で対決しようが、八郷（茨城）、函館女商（北海道）の評判もいい。

中国2位の徳山（山口）に進境を示す神埼農（佐賀）の一戦は見逃せない。このほか枚方（大阪）、名古屋女商（愛知）、小諸商（長野）桜水商（東京）らダークホースが並ぶ。

山陽女追う有力各校

初優勝にファイトを燃やす中国1位山陽女（広島）が安定した力を示しそう。

しかし北信越1位の小松市女（石川）、地力を秘めた佐世保商（長崎）、涌谷（宮城）、夙川学院（兵庫）の存在は無気味である。

また国体強化の粉河（和歌山）青森西（青森）、前橋市女（群馬）らも上り坂にある。粉河—小松市女戦は好勝負。

※

いうまでもなくこの大会は炎暑下の連戦、スタミナの配分、コンデイション造りも勝敗の行方を左右する一つのカギだろう。初出場校がなかなか勝ち進めないのはそんなところに原因があるのではないか。

1年間の激しい練磨の成果をこの大会にかけて各校悔いのない試合を展開されるよう期待し、高校生らしいさわやかなプレーを待望する。

第22回全日本高校選手権組み合せ

○……男　子……○

新居浜工（愛媛・⑲）
聖光学院工（福島・③）
清水（千葉・①）
堺工（大阪・④）
羽水（福井・③）
法政二（神奈川・①）
麻生（茨城・⑩）
桜台（愛知・⑲）
柏崎工（新潟・⑥）
添上（奈良・⑫）
天城（岡山・⑬）
小倉西（福岡・②）
東根工（山形・③）

川口工（埼玉・①）
湯沢（秋田・⑧）
県和歌山商（和歌山・⑫）
岩国工（山口・⑤）
大分東（大分・①）
三本松（香川・③）
金沢二水（石川・③）
松山工（愛媛・①）
松江工（島根・⑧）
鰺ヶ沢（青森・⑤）
小杉（富山・⑤）
鹿児島工（鹿児島・⑦）
中大附属（東京・⑦）
加納（岐阜・⑪）

中京（愛知・⑫）
修道（広島・⑬）
神代（東京・⑨）
兵庫工（兵庫・⑩）
追手前（高知・④）
佐賀農（佐賀・①）
古川工（宮城・⑧）
倉吉産業（鳥取・①）
清水商（静岡・⑲）
池田（徳島・①）
塔南（京都・②）
盛岡商（岩手・④）
熊本一工（熊本・①）
慶応（神奈川・①）

都城泉ヶ丘（宮崎・③）
国学院栃木（栃木・④）
上田（長野・⑨）
松山東（愛媛・②）
高島（滋賀・⑥）
津（三重・①）
那覇商（沖縄・②）
佐世保北（長崎・③）
前橋工（群馬・①）
岐山（岐阜・④）
函館有斗（北海道・①）
塩山商（山梨・⑬）
鳳（大阪・③）

○……女　子……○

水海道二（茨城・⑮）
浦添（沖縄・①）
竹田女（山形・③）
小平（東京・④）
別府青山（大分・②）
八幡商（滋賀・⑦）
暁（三重・①）
横浜市東（神奈川・①）
初芝（大阪・①）
古賀（福岡・①）
松江市女（島根・⑥）
花巻北（岩手・①）
三本松（香川・⑥）

秋田和洋（秋田・⑬）
熊本市立（熊本・⑯）
深谷女（埼玉・⑦）
明徳商（京都・③）
高蔵女商（愛知・④）
武生商（福井・①）
真備（岡山・⑤）
有磯（富山・⑨）
財部（鹿児島・②）
加納（岐阜・⑦）
国学院栃木（栃木・①）
岩瀬農長沼（福島・①）
新居浜市商（愛媛・⑤）

静岡城北（静岡・⑳）
八郷（茨城・②）
生駒（奈良・⑦）
巻（新潟・③）
函館女商（北海道・①）
昭和学院（千葉・⑥）
土居（愛媛・②）
徳山（山口・⑮）
神埼農（佐賀・⑤）
枚方（大阪・②）
山梨（山梨・⑰）
名古屋女商（愛知・⑧）
桜水商（東京・⑩）
小諸商（長野・⑩）

小林商（宮崎・①）
池田（徳島・⑤）
山陽女（岡山・⑩）
粉河（和歌山・④）
小松市女（石川・⑩）
青森西（青森・②）
前橋市女（群馬・⑦）
夙川学院（兵庫・④）
岐阜商（岐阜・①）
市川崎（神奈川・④）
追手前（高知・①）
涌谷（宮城・⑲）
佐世保商（長崎・④）

○内数字は出場回数

第14回全日本教職員選手権展望

第14回全日本教職員選手権大会は8月18日から21日まで鹿児島県隼人町（来秋の国体開催地）に34チームが参加して行われる。

沖縄をふくむ九州全域からの出場をはじめかってない多数のチームが集った。

宿願の全県参加へ着実な歩みをつづけているといってよかろう。

優勝を争う顔ぶれは今年もそう大きく変わりそうにない。

順当ならば準決勝は埼玉×スワロー兵庫、大阪イーグルス×東京の顔合せ。

2連勝を狙う埼玉はエース北井を筆頭に高戸、高田、結城、上久保、河住、GK高橋と主戦メンバーが不動。力・技・試合運びとも申し分ない。2年連続〝二冠独占〟を目標におくまとまりも買える。

スワロー兵庫はベテラン北山井上、畑、GK上野が主力。

大阪×東京は予断を許さない。東京がほとんど陣容を変えていないのに対し、イーグルスはベテラン勢では井上、青木が残っただけ。福井、樫塚、河原崎、安達らが中心になった。

4強を追うのは地元鹿児島、愛知、千葉、熊本、和歌山あたり。なかでも和歌山は塩崎、鈴木に串野、田中（ともに日体大）吉田（中京大）の有力選手を加え練習量も充分のようだ。愛知×千葉は1回戦屈指の好カード。

このほか福岡、大分、沖縄、静岡らが上位を狙っており、第3回（昭35）の優勝チーム神戸ストークの流れをくむストーク兵庫や、かっての全日本級を並べたオールドイーグルスの登場も注目されよう。（杉）

埼玉教員ク
福岡教員
岐阜教員
愛教ク（愛知）
滋賀教員
茨城教員
Oldイーグルス
大分教員
山口教員
鹿児島教員
愛媛教員
三重教員団
神奈川教員団
岡山教員
宮崎教員
群馬教員
スワロー兵庫
大阪イーグルス
佐賀教員
香川教員
栃木教員
広島教員
沖縄教員
愛知教員
千葉教員
熊本教員団
宮城教員団
山梨教員
大阪市教員団
和歌山教員
静岡教員
ストーク兵庫
長崎教員
東京教員

第1航空群に初の栄冠

第1回海上自衛隊大会開く

海上自衛隊体育大会の正式種目となって最初の「海上自衛隊ハンドボール大会」が6月24、25の両日鹿児島県、鹿屋航空基地グランドに全国から16チームが参加して行われた。

大会はトーナメントで争われ、5月の全日本自衛隊選手権で準優勝した海上鹿屋の主力第一航空群が決勝で教育航空集団に後半逆転勝ちして優勝を飾った。

▽1回戦

大湊地方隊 14（6－3, 8－5）8 舞鶴地方隊
第3航空群 11（6－4, 5－3）7 第21航空群
第1航空群 13（7－1, 6－4）5 第3術科学校
佐世保地方隊 22（13－12, 9－9）21 横須賀地方隊
教育航空集団 18（8－2, 10－2）4 呉地方隊
第2護衛隊群 18（11－6, 7－3）9 第4護衛隊群
第3護衛隊群 12（7－3, 5－5）8 第1潜水隊群
第4航空群 10（4－4, 6－3）7 掃海隊群

▽準々決勝

第3航空群 11（5－3, 6－4）7 大湊地方隊
第1航空群 10（4－4, 6－3）7 佐世保地方隊
教育航空集団 18（9－3, 9－5）8 第2護衛隊群
第4般空群 14（5－7, 9－1）8 第3護衛隊群

▽準決勝

第1航空群 20（8－3, 12－4）7 第3航空群
教育航空集団 19（7－2, 12－6）8 第4航空群

▽3位決定戦

第3航空群 11（5－4, 6－6）10 第4航空群

▽決勝

第1航空群 11（3－4, 8－2）6 教育航空集団

【後記】〝第1回〟大会にふさわしい熱気のこもった雰囲気の中で各試合が進められた。

参加16チームはそれぞれこの大会をめざし充分な練習をつんで来た成果が示され、特に最後までゲームを捨てず果敢な攻撃に徹した試合ぶりはいかにも「海上自衛隊」にふさわしく観客の拍手をあびた。

第1回でもありどれだけの技量かと不安があったがフタをあけてみると、レベルの高い好内容であった。特に準々決勝の第1航空群－佐世保地方隊、決勝の第1航空群－教育航空集団などは1点を争うシーソーゲームで見応えがあった。全般的な印象としてディフェンスに甘さがのぞき、この面を研究する必要がある。（古市寿夫・鹿児島県協会理事長）

スポーツ少年団中央指導者研修会に参加して

日本ハンドボール協会普及部委員
三浦公
斉藤和夫

ぎっしりつまった日程の4日間東京・岡記念体育会館地下3階においてスポーツ少年団について各方面の先生がたの講演または育成にあたっての体験発表、スポーツや体育に関する貴重な話など息つくひまもない状況で、このようなかたがたの努力、熱心さがあればこそスポーツ少年団の発展があるのだと頭のさがる思いがしました。内容的に体育とスポーツを同義語に扱う方、区別する方、又はその場に適応させて自由自在に使い分ける方、更に講師の先生の立場、立場において、その分野に都合の良い様にスポーツ少年団を解して居られる方々等があり、考えさせられたり、又、興味深く感じられた。日本全国より約二百名の熱心な少年団の指導者が集った会場は、その組織力、計画性、そして実行力、経験の豊かさを思わせる熱気で一杯であり、一つの問題に全体でぶつかって行く力を、いやと言う程見せつけられた。どの様な小さな事でも見のがさず討議研究される。

さて、スポーツ少年団の種目別全国結成状況から見るとハンドボールは同型の球技では最底の部に属しサッカー七〇九、バレー六五八、バスケット二四二の団体数にくらべ、二四と言う貧弱さであり団員数に於ても、サッカー二一二三八、バレー一九〇八四、バスケット六七二〇、ハンドボールはわずか全国で八三〇である。そしてサッカーは一団体もない県は五県、バレーは〇、バスケット六県ハンドボールは三四県もの未開拓がある。一番多い団員を持つ大阪でさえ一九三人であるのに対し、サッカーは一六三〇、バレーボールは二五三三、バスケットボールは一二八六である。

なんとしても、現状打解の努力を必要とする。

県名 ＼ 種目	サッカー		バレーボール		バスケットボール		ハンドボール	
	団体数	団員数	団体数	団員数	団体数	団員数	団体数	団員数
北海道	34	1111	45	1130	13	341		
青森	40	1008	12	274	4	93		
岩手	14	427	7	169	2	47		
宮城	12	313	8	178	2	77		
秋田	28	693	17	448	6	133		
山形	2	84	6	244	2	55		
福島			20	412	7	152		
茨城	53	1342	55	1353	50	1286	4	112
栃木	16	534	39	1398	29	964		
群馬	2	72	1	88	1	21		
埼玉	31	757	65	2533	23	502		
山梨			10	365				
千葉	13	423	15	437	7	163		
東京	18	587	9	232	5	152	3	75
神奈川	30	725	3	47	2	70		
新潟	3	106	2	50	1	47	2	73
長野			3	128				
富山	14	654	13	552	7	357	2	36
石川	4	134	2	34	1	22		
福井	3	89	4	135	3	89		
静岡	47	1630	1	74	2	35		
愛知	4	104	7	214	9	318	2	60
三重	12	124	20	632	2	97	1	39
岐阜	21	593	7	277	1	35	1	48
滋賀	15	441	3	117	2	82	1	24
京都	24	812	9	201	2	68	1	11
大阪	37	1246	9	245	2	63	2	192
兵庫	63	1651	10	311	1	36	1	27
奈良			2	74	1	18		
和歌山	2	44	8	128				
鳥取	2	56	5	156				
島根	7	131	20	529	6	167		
岡山	14	314	2	109	3	89		
広島	13	613	9	277	3	65		
山口	46	1444	5	89	1	32	3	93
香川	14	594	14	465	6	154		
徳島	6	230	3	126				
愛媛	6	150	4	173	1	23		
高知	2	56	3	102	1	38		
福岡	20	544	16	385	1	23		
佐賀	1	14	6	121	5	106		
長崎			78	1927	20	469		
熊本	2	93	4	102			1	40
大分	22	584	9	201	2	62		
宮崎	1	33	3	55	1	38		
鹿児島	7	269	64	1773	2	41		
沖縄	4	111	1	44	3	91		
合計	709	21238	658	19084	242	6720	24	830

第22回全日本高校選手権
各県予選記録②

▽太字は代表校
▽7月10日まで報告分

推せん出場校(前年度優勝校)
▽男子　新居浜工(愛媛県)
4年連続19回目の出場
▽女子　水海道二高(茨城県)
2年連続15回目の出場

北海道(道大会)

▼男子予選リーグA組
函館ラサール 13－9 登別大谷
室蘭東 18－12 釧路工
釧路工 14－10 函館ラサール
室蘭東 19－13 登別大谷
室蘭東 10(分)10 函館ラサール
釧路工 12－9 登別大谷
▽同B組
室蘭清水丘 23－7 札幌啓成
函館有斗 15－9 紋別北
紋別北 18－12 室蘭清水丘
函館有斗 12－5 札幌啓成
紋別北 11－7 札幌啓成
函館有斗 13－9 室蘭清水丘
▽同決勝
函館有斗 6－4 室蘭東
函館有斗高は初出場
▼女子予選リーグA組
函館商 8－4 紋別北
室蘭商 17－4 紋別北
室蘭商 6－4 函館商
▽同B組
登別 10－5 登別大谷
函館女商 17－1 登別大谷
函館女商 5－0 登別
▽同決勝
函館女商 6－4 室蘭商
函館女子商は初出場。

東北

▽……山形県
▼男子決勝リーグ
新庄工 10－9 大石田
東根工 14－13 寒河江
東根工 8(分)8 大石田
寒河江 20－9 新庄工
東根工 20－13 新庄工
大石田 14－9 寒河江
【順位】①**東根工**②大石田③新庄工・寒河江　東根工は3年ぶり3回目の代表
▼女子決勝
竹田女 7－6 米沢女
竹田女高は2年ぶり3回目の代表

▽……宮城県
▼男子予選リーグA組
古川工 14－7 仙台一
古川三 12－10 筑館
仙台一 14－8 筑館
▽同B組
東北学院 7－6 古川
東北学院 12－7 祇園寺
祇園寺 13－10 宮城水産
東北学院 14－13 宮城水産
古川 12－7 宮城水産
古川 18－10 祇園寺
▽同C組
仙台育英 27－5 電子
東北 10－6 電子
仙台 17－4 東北
仙台 18－9 電子
仙台育英 18－3 東北
仙台育英 10－4 仙台
▽同D組
仙台三 15－2 塩釜
仙台商 8－7 仙台三
仙台二 14－7 塩釜
仙台商 14－6 塩釜
仙台高 8－7 仙台二
仙台三 11－5 仙台二
▽同決勝トーナメント1回戦
古川工 12－5 仙台
東北学院 7－6 仙台三
仙台一 11－10 仙台育英
古川 7－4 仙台商
▽同準決勝
古川工 8－5 東北学院
仙台一 7－6 古川
▽同決勝
古川工 12－7 仙台一
古川工は3年連続8回目の代表
▼女子予選リーグA組
涌谷 7－5 宮城三女
塩釜女 15－2 仙台女商
涌谷 15－6 祇園寺
宮城三女 19－1 仙台女商
涌谷 26－0 仙台女商
宮城三女 8－4 塩釜女
祇園寺 16－2 仙台女商
涌谷 22－1 塩釜女
宮城三女 11－3 祇園寺
祇園寺 10－8 塩釜女
▽同B組
宮城二女 8－5 宮城一女
古川商 13－0 筑館
古川女 16－2 宮城一女
宮城二女 8－3 筑館
宮城一女 6－5 筑館
宮城二女 5－3 古川商
古川女 18－1 筑館
古川商 9－1 宮城一女
古川女 6－2 宮城二女
古川女 5－4 古川商
▽同決勝トーナメント1回戦
涌谷 14－4 宮城二女
宮城三女 7－2 古川女
▽同決勝
涌谷 8－4 宮城三女
涌谷高は2年連続19回目の代表

▽……秋田県
▼男子予選リーグA組

大曲農 10(分)10 羽後
秋田南 22—7 羽後
秋田南 17—10 大曲農

▽同B組
湯沢 30—4 横手
大曲 25—9 横手
湯沢 23—9 大曲

▽同決勝トーナメント1回戦
大曲 14—12 秋田南
湯沢 19—7 大曲農

▽同決勝
湯沢 18—4 大曲
湯沢高は3年連続8回目の代表

▼女子リーグ
六郷 4—2 大曲
秋田和洋 28—0 大曲農
秋田和洋 16—0 六郷
大曲 10—3 大曲農
六郷 11—1 大曲農
秋田和洋 14—1 大曲
【順位】①秋田和洋3戦全勝②六郷2勝1敗③大曲1勝2敗④大曲農3敗。秋田和洋高は11年連続13回目の代表

▽……青森県

▼男子準々決勝(=1回戦)
鰺ケ沢 26—8 十和田工
青森南 12—8 弘前南
七戸 12—7 柏木農
三本木 12—9 青森

▽同準決勝
鰺ケ沢 18—10 青森商
七戸 17—16 三本木

△同決勝
鰺ケ沢 16—15 七戸
鰺ケ沢高は5年連続5回目の代表

▼女子1回戦(3試合)
七戸 不戦勝 青森商
光星学院 13—1 青森
三本木 4—2 大湊

▽同準決勝
青森西 10—0 七戸
光星学院 6—5 三本木

▽同決勝
青森西 10—2 光星学院
青森西高は2年連続2回目の代表

関東

▽……埼玉県

▼男子1回戦
大宮 13(分)13 春日部
抽せんで大宮高の勝ち
坂戸 26—9 大宮北
浦和工 25—16 聖望
朝霞 14—11 浦和西

▽同準々決勝
浦和南 29—9 浦和商
浦和市立 12—9 坂戸
草加 20—6 朝霞
川口工 24—5 大宮

▽同準決勝
川口工 16—7 浦和市立
草加 16—7 浦和南

▽同決勝
川口工 15—5 草加
川口工は初出場

▼女子1回戦(3試合)
熊谷商 11—4 浦和西
嵐山女 25—4 菖蒲
川口女 12—6 聖望学園

▽同準々決勝
行田女 11—7 浦和市立
浦和南 17—2 嵐山女
川口女 3(分)3 朝霞
深谷女 13—1 熊谷商

▽同準決勝
深谷女 17—5 行田女
川口女 4—1 浦和南

▽同決勝
深谷女 11—1 川口女
深谷女高は6年連続7回目の代表

▽……群馬県

▼男子1回戦(3試合)
富岡 14—7 桐生工
前橋商 12—10 甘楽農
桐生 16—12 太田工

▽同準決勝
富岡 13—5 前橋商
前橋工 26—3 桐生

▽同決勝
前橋工 11—9 富岡
前橋工は初出場

▼女子1回戦(2試合)
高崎女 7—5 高崎市女
桐生女 20—6 群馬女大附

▽同準決勝
前橋市女 19—4 高崎女
下仁田 13—2 桐生女

▽同決勝
前橋市女 14—6 下仁田
前橋市女高は3年連続7回目の代表

▽……神奈川県

▼男子予選トーナメント1回戦
法政工 17—11 向岡工
関東学院 不戦勝 茅ケ崎
川和 16—9 大船技術
相模原 16—9 日野
横浜商 13—12 北陵
南 14—8 武相

▽同2回戦
法政二 17—12 法政工
桜丘 12—10 市横須賀工
立野 14—10 磯子工
少年工 14—13 横浜商工
関東学院 18—3 神奈川工
桐蔭 不戦勝 県立商工
市川崎工 7—3 川和
新城 8—7 相模原
東 21—1 生田
相模台工 24—14 平沼
鎌倉学園 11—8 多摩
横浜商 18—5 松田
希望ケ丘 10—6 翠嵐
一商 15—10 大和
慶応 18—4 南

▽同3回戦
法政二 9—7 桜丘
少年工 12—9 立野
関東学院 12—2 桐蔭
市川崎工 11—9 市川崎
新城 7—6 東
相模台工 12—7 鎌倉学園

横浜商 14－6 希望ヶ丘
慶応 7－6 一商

▽同決勝リーグ出場校決定戦
法政二 棄権 少年工
市川崎工 15－4 関東学院
新城 15－11 相模台工
慶応 17－6 横浜商

▽同決勝リーグ
法政二 15－14 市川崎工
慶応 10－5 新城
法政二 11－10 新城
慶応 14－11 市川崎工
慶応 14－10 法政二
市川崎工 13（分）13 新城

【順位】①慶応3戦全勝②法政二2勝1敗③市川崎工・新城1分2敗
慶応高・法政二高ともに初出場

▼女子予選トーナメント1回戦
日野 14－1 大和
立野 4－3 三浦
翠嵐 不戦勝 川和
大津 17－3 多摩

▽同2回戦
市立川崎 9－3 日野
上溝 不戦勝 平沼
生田 8－6 高浜
南 8－1 立野
桜丘 13－1 翠嵐
明倫 7－4 江南
二俣川 11－2 京浜
東 4－2 大津

▽同決勝リーグ出場校決定戦
市立川崎 9－5 上溝
南 4－2 生田
桜丘 12－2 明倫
東 6－4 二俣川

▽同決勝リーグ
市立川崎 4－2 南
東 8－3 桜丘
市立川崎 7－3 桜丘
東 9－2 南
市立川崎 7－4 東
桜丘 3（分）3 南

【順位】①市立川崎3戦全勝②東2勝1敗③桜丘・南1分2敗、市立川崎高は4年ぶり4回目の代表、東高は初出場

▽……栃木県

▼男子1回戦（1試合）
宇都宮工 13－12 烏山

▽同準々決勝
宇都宮工 24－2 矢板
国学院栃木 14－3 足利
馬頭 17－4 足利商
足利工 21－0 石橋

▽同準決勝
国学院栃木 11－6 宇都宮工
足利工 14－13 馬頭

▽同決勝
国学院栃木 9－5 足利工
国学院栃木高は4年連続4回目の代表

▼女子1回戦（2試合）
小山城南 15－3 足利女
馬頭 11－6 足利商

▽同準決勝
栃木女 16－4 小山城南
国学院栃木 25－1 馬頭

▽同決勝
国学院栃木 9－3 栃木女
国学院栃木高は初出場

▽……千葉県

▼男子1回戦（2試合）
市川 14－8 国府台
八千代 15－8 東邦

▽同準々決勝
木更津 22－16 鶴舞
清水 25－6 東葛
佐原 8－6 八千代
小金 22－3 市川

▽同準決勝
小金 11－7 木更津
清水 11－9 佐原

▽同決勝
清水 11－10 小金
清水高は初出場

▼女子1回戦（3試合）
東邦 11－3 小金
八千代 14－4 木更津
佐原女 15－2 鶴舞

▽同準決勝
佐原女 17－4 東邦
昭和学院 12－4 八千代

▽同決勝
昭和学院 7－5 佐原女
昭和学院高は6年連続6回目の代表

▽……山梨県

▼男子1回戦（1試合）
機山 13－12 大月

▽同2回戦
甲府南 16－9 東洋
吉田 21－5 峡北
長坂 19－8 韮崎
明誠 8－5 都留
塩山商 不戦勝 機山
甲府商 16－12 甲府一
園芸 14－9 甲府工
日川 24－5 谷村

▽同準々決勝
塩山商 23－2 甲府南
日川 12－11 園芸
吉田 19－5 長坂
明誠 16－8 甲府商

▽同準決勝
塩山商 16－8 吉田
日川 10－9 明誠

▽同決勝
塩山商 14－5 日川
塩山商は5年連続13回目の代表

▼女子1回戦（2試合）
峡北 9－2 日川
長坂 8－6 甲府二

▽同準々決勝
山梨 11－2 峡北
園芸 3－2 甲府商
一商 7－2 湯田
塩山 15－6 長坂

▽同準決勝
山梨 23－1 園芸
塩山 12－2 一商

▽同決勝
山梨 8－7 塩山
山梨高は4年連続17回目の代表

▽……東京都

▲男子決勝リーグ

中大附属 25—8 神代
府中 5(分)5 国立
神代 7—4 国立
中大附属 14—5 府中
中大附属 22—5 国立
神代 11—2 府中

【順位】①中大附属3勝②神代2勝1敗③府中・国立2敗1分=中大附属は7年連続7回目の代表、神代高は2年ぶり9回目の代表

▼女子決勝リーグ
桜水商 10—4 小平
佼成学園 6(分)6 神代
小平 9—6 佼成学園
神代 5—3 桜水商
桜水商 9—4 佼成学園
小平 9—7 神代

【順位】①桜水商・小平2勝1敗③神代1勝1分1敗④佼成学園1分2敗=桜水商は3年連続10回目の代表、小平高は2年ぶり4回目の代表

▽…茨城県

▼男子一回戦
土浦一 7—6 潮来
常北 10(分)10 下館一
抽せんで常北高の勝ち
土浦工 17—3 茨城
石岡一 11—5 磯原
真壁 10—9 土浦三
鉾田一 10—2 古河三

▽同2回戦
麻生 12—2 土浦一
水戸工 8—7 石岡商
波崎 11—10 常北
水戸一 10—5 土浦工
石岡一 13—3 竜ケ崎一
江戸崎 21—8 真壁
水海道一 4—2 勝田工
笠間 10—5 鉾田一

▽同準々決勝
石岡一 11—9 江戸崎
笠間 10—5 水海道一
水戸一 22—10 波崎
麻生 15—3 水戸工

▽同準決勝
笠間 9—5 石岡二
麻生 31—9 水戸一

▽同決勝
麻生 19—8 笠間
麻生高は2年ぶり10回目の代表

▼女子一回戦
八郷 10—3 江戸崎
鉾田二 8—2 水戸二
潮来 棄権 日立二
太田二 12—4 高萩
石岡二 15—3 岩井
麻生 14—9 結城
磯原 12—8 常北
石岡商 6—4 笠間

▽同準々決勝
石岡商 14—5 磯原
石岡二 13—4 麻生
太田二 9—1 潮来
八郷 10—5 鉾田二

▽同準決勝
石岡二 8—4 石岡商
八郷 15—10 太田二

▽同決勝
八郷 6—5 石岡二
八郷高は2年ぶり2回目の代表

北陸・信越

▽…石川県

▼男子1回戦
星稜 16—8 津幡
泉ケ丘 18—9 金沢商
金工大附 9—7 県工
金沢市工 23—8 大谷
二水 14—11 小松商
小松 22—9 羽咋

▽同準々決勝
小松工 7—6 星稜
金工大附 14—12 泉ケ丘
二水 13—6 金沢市工
松陵工 24—6 小松

▽同準決勝
金工大附 12—9 小松工
二水 8—7 松陵工

▽同決勝
二水 21—12 金工大附
二水高は20年ぶり3回目の代表

▼女子1回戦(1試合)
金沢商 10—3 羽咋

▽同準々決勝
小松市女 17—2 金沢商
星稜 9—0 津幡
小松商 9—2 珠洲実
大谷 8—5 松任

▽同準決勝
小松市女 13—3 星稜
小松商 7—4 大谷

▽同決勝
小松市女 10—7 小松商
小松市女高は7年連続10回目の代表

多くの県の方々の御協力によって、この予選記録従来になく多数の県の記録を掲載することができました。関係者のみなさまの協力に、あつく御礼申しあげます。
なお、大分県の記録、遅れて到着したため、男子決勝リーグ、女子準決勝以前の記録掲載が不可能になりました。御了承下さい。

▽…富山県

▼男子1回戦
氷見 28—3 大沢野
八尾 16—7 富山中部
富山商 9—1 有磯
二上工 16—7 富山東
高岡商 18—6 高岡
富山 9—8 富山工

▽同準々決勝
高岡日大 19—14 氷見
八尾 16—6 富山商
二上工 10—5 高岡商
小杉 17—6 富山

▽同準決勝
高岡日大 16—8 八尾
小杉 12—4 二上工

▽同決勝
小杉 12—6 高岡日大
小杉高は2年ぶり5回目の代表

▼女子1回戦(3試合)
高岡女 5—4 富山女

富山北 9—1 高岡
有磯 22—3 清光
▽同準決勝
有磯 11—1 富山北
小杉 5—2 高岡女
▽同決勝
有磯 6—4 小杉
有磯高は4年ぶり9回目の代表

▽……長野県

▼男子地区予選決勝
▽北信地区
屋代 3—2 坂城
▽東信地区
北佐久農 17—10 上田
▼同県大会1回戦（1試合）
上田 12—3 坂城
▽同準決勝
屋代 8—3 佐久
上田 11—8 北佐久農
▽同決勝
上田 10—7 屋代
上田高は2年連続9回目の代表
▼女子東信地区予選準決勝
小諸商 19—8 佐久
北佐久農 16—4 城南
▽同決勝
小諸商 17—8 北佐久農
▼同県大会1回戦（1試合）
上田城南 8—6 佐久
▽同準決勝
北佐久農 9—4 松本美須々丘
小諸商 21—2 上田城南
▽同決勝
小諸商 8—6 北佐久農
小諸商は10年連続10回目の代表

▽……新潟県

▼男子1回戦（2試合）
柏崎工 13—4 明訓
巻 15—13 柏崎
▽同決勝
柏崎工 11—1 巻
柏崎工は2年ぶり6回目の代表
▼女子決勝リーグ
巻 18—1 明訓
巻 18—1 新潟女
明訓 10—4 新潟女
【順位】①巻②明訓③新潟女＝巻高は5年ぶりの3回目の代表

東海

▽……静岡県

▼男子1回戦（1試合）
富士 23—3 天竜林業
▽同2回戦
浜松南 12—4 富士
沼津工 16—5 静清工
気賀 33—5 修善寺工
御殿場 13—11 清水東
清水商 31—10 沼津東
静岡東 18—3 三島南
春野 9—7 裾野
静岡農 19—5 二俣
▽同準々決勝
浜松南 11—6 沼津工
気賀 21—11 御殿場
清水商 18—10 静岡東
静岡農 24—10 春野
▽同準決勝
浜松南 10—3 気賀
清水商 12—11 静岡農
▽同決勝
清水商 6—5 浜松南
清水商は5年連続19回目の代表
▼女子1回戦
浜松南 11—3 沼津女
二俣 23—4 富士宮東
御殿場 12—10 藤枝西
清水女 4—0 裾野
▽同準々決勝
静岡城北 14—1 浜松南
二俣 9—3 吉原
清水西 10—7 御殿場
清水商 10—0 清水女
▽同準決勝
静岡城北 5—4 二俣
清水商 6—4 清水西
▽同決勝
静岡城北 7—6 清水商
静岡城北高は3年連続20回目の代表

▽……三重県

▼男子予選ラウンド1回戦
亀山 15—11 海星
四日市工 27—4 四日市
高田 棄権 津実業
▽同2回戦
津 36—7 亀山
四日市工 13—3 津工
高田 棄権 四日市商
▽同決勝リーグ
四日市工 11—2 高田
津 26—3 高田
津 8—3 四日市工
【順位】①津2勝②四日市工1勝1敗③高田2敗　津高は初出場
▼女子1回戦
上野 21—5 松阪女
四日市 17—4 菰野
メリノール 8—1 白山
四日市商 15—6 津
▽同準々決勝
暁 15—4 上野商
四日市 11—4 上野
津女 17—1 メリノール
四日市商 14—5 亀山
▽同準決勝
暁 7—1 四日市
津女 11—2 四日市商
▽同決勝
暁 3—2 津女
暁高は初出場

近畿

▽……和歌山県

▼男子決勝リーグ
和歌山商 17—6 粉河
那賀 8—4 御坊商工
笠田 5—3 新宮
御坊商工 18—3 粉河
和歌山商 21—9 桐蔭
笠田 7—6 那賀
桐蔭 12—8 新宮
那賀 23—3 粉河
笠田 6—5 桐蔭
和歌山商 16—8 新宮

御坊商工 9－3 笠田
那賀 15－3 新宮
和歌山商 16－5 御坊商工
桐蔭 14－1 粉河
新宮 8－5 御坊商工
桐蔭 8－7 那賀
和歌山商 10－3 笠田
新宮 11－0 粉河
御坊商工 11－9 桐蔭
和歌山商 13－2 那賀
笠田 11－2 粉河
【順位】①和歌山商②笠田③那賀④御坊商工⑤桐蔭⑥新宮⑦粉河
県立和歌山商高は2年連続12回目の代表
▼女子決勝リーグ
和歌山商 9－1 貴和
粉河 14－3 御坊商工
和歌山商 8－6 御坊商工
粉河 11－2 貴和
御坊商工 5－3 貴和
粉河 6－1 和歌山商
【順位】①粉河②和歌山商③御坊商工④貴和。粉河高は4年連続4回目の代表

▽……滋賀県

▼男子最終予選1回戦（＝準決勝）
八幡工 14－7 彦根東
高島 7－0 八幡商
▽同決勝
高島 14－12 八幡工
高島高は4年ぶり6回目の代表
▼女子最終予選1回戦（＝準決勝）
八幡商 5－3 守山女
彦根東 6－3 高島
▽同決勝
八幡商 9－2 彦根東
八幡商は2年連続7回目の代表

▽……奈良県

▼男子1回戦（2試合）
東大寺 9－6 正強
郡山 13－5 十津川
▽同準々決勝
生駒 20－7 榛原
郡山 9－5 桜井商
添上 23－4 東大寺
奈良 棄権 畝傍
▽同準決勝
添上 15－8 生駒
奈良 12－10 郡山
▽同決勝
添上 9－4 奈良
添上高は5年連続12回目の代表
▼女子1回戦（2試合）
生駒 12－0 奈良文化女短大附属
添上 10－6 十津川
▽同準決勝
添上 12－1 桜井商
生駒 11－2 郡山
▽同決勝
生駒 6－4 添上
生駒高は3年連続7回目の代表

▽……兵庫県

▼男子1回戦
鈴蘭台 9－7 明石
御影工 18－9 明石南
市神港 17－9 明石商
兵庫 23－6 有馬
柏原 10－8 市神戸工
尼崎工 12－9 村野工
▽同2回戦
鈴蘭台 25－12 三田
西宮東 15－14 小野工
滝川 19－4 柏原
兵庫 17－13 甲陽
兵庫工 26－4 東播工
県神戸商 12－10 尼崎工
武庫工 19－10 御影工
報徳 13（分）13 市神港
抽せんで報徳学園高の勝ち
▽同決勝リーグ出場校決定戦
鈴蘭台 11－4 報徳
武庫工 17－4 西宮東
兵庫工 14－3 滝川
県神戸商 17－4 兵庫
▽同決勝リーグ
兵庫工 13－9 鈴蘭台
武庫工 10－8 県神戸商
兵庫工 9（分）9 県神戸商
兵庫工 17－11 武庫工
武庫工 19－6 鈴蘭台
県神戸商 7－5 鈴蘭台
【順位】①兵庫工2勝1分②武庫工2勝1敗③県神戸商1勝1分1敗④鈴蘭台3敗。兵庫工は2年連続10回目の代表
▼女子1回戦（2試合）
明石 9－4 市神港
明石商 9－5 伊丹
▽同2回戦
甲子園 7－3 明石
県神戸商 12－3 兵庫工
鈴蘭台 16－1 飾磨
佐用 6－2 園田
県尼崎 12－4 須磨女
神戸女商 6－4 明石南
近大豊岡 21－7 北条
夙川学院 19－1 明石商
▽同決勝リーグ出場校決定戦
甲子園 7－5 鈴蘭台
県神戸商 11－3 佐用
近大豊岡 10－3 県尼崎
夙川学院 6－2 神戸女商
▽同決勝リーグ
夙川学院 7－5 県神戸商
甲子園 7－5 近大豊岡
夙川学院 8－6 近大豊岡
夙川学院 6－4 甲子園
甲子園 8（分）8 県神戸商
近大豊岡 9－8 県神戸商
【順位】①夙川学院3戦全勝②甲子園1勝1分1敗③近大豊岡1勝1分2敗④県神戸商1分2敗。夙川学院高は2年連続4回目の代表

▽……京都府

▼男子1回戦（1試合）
洛東 15－3 西京商
▽同2回戦
伏見工 19－10 桃山
城南 10－7 桂
田辺工 13－7 堀川
日吉 10－6 鴨沂
乙訓 12－10 嵯峨野
大谷 8－6 洛星
洛北 12－7 平安
塔南 18－5 洛東
▽同準々決勝
伏見工 20－10 城南
日吉 10－9 田辺工
大谷 18－8 乙訓
塔南 20－10 洛北
▽同準決勝
伏見工 20－7 日吉
塔南 10－9 大谷
▽同決勝
塔南 9－7 伏見工
塔南高は2年連続2回目の代表
▼女子1回戦（3試合）
塔南 9－1 桂
乙訓 11－8 京都精華
鴨沂 10－4 桃山
▽同準々決勝
嵯峨野 6－3 京都女
明徳商 8－1 塔南
乙訓 26－4 洛東
鴨沂 6（分）6 西京
鴨沂高の抽せん勝ち
▽同準決勝
明徳商 7－4 乙訓
鴨沂 4－3 嵯峨野
▽同決勝
明徳商 6－3 鴨沂
明徳商は3年ぶり3回目の代表

▽……大阪府（最終予選）

▼男子1回戦
鳳 13－10 城東工
佐野工 14－9 三国ケ丘
寝屋川 19－9 豊中
堺工 12－10 初芝

天王寺 18－7 勝山
東住吉 10－7 富田林
泉北 20－16 北淀
花園 18－10 大商

▽同決勝リーグ出場校決定戦
鳳 15－9 佐野工
堺工 11－6 寝屋川
天王寺 13－4 東住吉
花園 17－9 泉北

▽同決勝リーグ
堺工 13－12 鳳
天王寺 12－7 花園
鳳 17－6 天王寺
花園 13－11 堺工
鳳 13－9 花園
堺工 17－9 天王寺

【順位】①鳳2勝1敗(得失点差14)②堺工2勝1敗(7)③花園・天王寺1勝2敗＝鳳高は17年ぶり3回目の代表、堺工高は2年ぶり4回目の代表

▼女子決勝リーグ出場校決定戦
枚方 7－3 寝屋川
清友 7－2 八尾
天王寺 7－6 北淀
初芝 4－3 春日丘

▽同決勝リーグ
枚方 6－3 清友
初芝 8－2 天王寺
枚方 7－4 天王寺
初芝 3－1 清友
天王寺 7－3 清友
初芝 8－5 枚方

【順位】①初芝3戦全勝②枚方2勝1敗③天王寺1勝2敗④清友3敗

初芝高は初出場、枚方高は2年連続2回目の代表。

(注)大阪府第一・第二予選は前号既報

中国

▽……鳥取県(男子のみ)

▽決勝リーグ
倉吉産業 10－6 境港工
倉吉工 17－10 境
倉吉工 11(分)11 境港工
倉吉産業 15－7 境
境港工 17－13 境
倉吉産業 6－5 倉吉工

【順位】①倉吉産業②倉吉工③境港工④境。倉吉産業高は初出場

▽……山口県

▼男子1回戦
野田学園 19－8 高森
宇部工 14－4 高水
小野田工 22－6 岩国商
下関一 13－9 坂上

▽同2回戦
岩国工 24－4 野田学園
下関西 16－8 下松工
山口 25－15 徳山工
岩国 9－8 宇部工
下関中央工 13－11 小野田工
南陽工 18－15 防府商
徳山 15－8 早鞆
下関工 19－8 下関一

▽同準々決勝
岩国工 24－2 下関西
山口 17－10 岩国
下関中央工 14－13 南陽工
下関工 19－8 徳山

▽同準決勝
岩国工 24－1 山口
下関工 13－7 下関中央工

▽同決勝
岩国工 24－7 下関工

岩国工高は4年ぶり5回目の代表

▼女子1回戦(2試合)
下関西 15－4 高森
高水 11－5 防府商

▽同準々決勝
徳山 10－7 下関西
宇部女 12－7 岩国商
岩国 8－2 徳山商
山口中央 6－3 高水

▽同準決勝
徳山 9－4 宇部女
山口中央 6－5 岩国

▽同決勝
徳山 8－6 山口中央

徳山高は14年連続15回目の代表

▽……岡山県

▼男子1回戦(2試合)
矢掛 13－9 勝間田
児島 19－2 倉敷工

▽同2回戦
天城 20－8 矢掛
津山 20－4 岡山工
邑久 10－4 大安寺
津山工 4－2 操山
倉敷商 27－9 関西
水工 9－8 青陵
金川 15－10 玉野
児島 16－8 津山商

▽同準々決勝
天城 32－4 津山
邑久 13－10 津山工
倉敷商 25－5 水工
児島 22－11 金川

▽同準決勝
天城 19－9 邑久
倉敷商 15－8 児島

▽同決勝
天城 19－5 倉敷商

天城高は2年ぶり13回目の代表

▼女子予選ラウンド(3試合)
落合 7－6 金川
真備 棄権 西大寺
津山商 11－2 井原

▽同決勝リーグ
津山商 8－2 落合
真備 18－1 落合
真備 8－6 津山商

【順位】①真備②津山商③落合。真備高は5年連続5回目の代表

四国

▽……愛媛県(開催県)

▼男子予選トーナメント1回戦
新居浜東 14－12 松山北中島
松山東 13－5 松山南
新居浜商 15－11 松山商
松山北 19－9 今治南

▽同2回戦
松山工 16－2 新居浜東
松山東 6－3 今治工
新田 13－9 新居浜商
松山北 7－5 今治西

▽同決勝リーグ
松山東 6－3 新田
松山東 7－6 松山工
松山工 12－9 松山北
松山北 12－8 新田
松山工 12－10 新田
松山東 9－3 松山北

【順位】①松山東3戦全勝②松山工2勝1敗③松山北1勝2敗④新田3敗。松山東は21年ぶり2回目の代表、松山工は初出場。

▽参考記録
新居浜工 8－3 松山工
松山東 9－8 松山工
新居浜工 8－5 松山東

▼女子1回戦(3試合)
明徳 9－2 西条
新居浜西 17－5 今治南
東温 17－0 今治西

▽同準々決勝
新居浜商 11－2 新居浜西
松山商 12－7 東温
土居 19－0 明徳
新居浜東 10－6 大州農

▽同準決勝(代表決定戦)
土居 11－0 新居浜東
新居浜商 12－6 松山商

土居高は2年連続2回目の代表
新居浜商は5年連続5回目の代表

▽同決勝
土居 2－1 新居浜商

九州

▽……長崎県

▼男子1回戦（2試合）
高　島 19－12 佐世保東商
長崎工 14－9 鹿町工
▽同準決勝
佐世保北 34－2 高　島
造　船 18－5 佐世保市商
西　海 14－10 佐世保工定
口　加 16－9 長崎工
▽同準決勝
佐世保北 35－2 造　船
口　加 24－12 西　海
▽同決勝
佐世保北 16－6 口　加
佐世保北高は3年連続3回目の代表

▼女子1回戦（3試合）
長崎北 25－5 佐世保市商
佐世保北 17－3 島原南
佐世保商 26－0 佐世保女
▽同準決勝
島原農 9－4 長崎北
佐世保商 10－5 佐世保北
▽同決勝
佐世保商 7－6 島原農
佐世保商は3年ぶり4回目の代表

▽……福岡県

▼男子1回戦（3試合）
西南学院 14－11 門　司
西田川 26－9 東海五
福岡工 25－5 南　筑
▽同2回戦
西南学院 12－10 田川工
若　松 7－2 明　善
小倉西 16－9 泰　星
筑紫中央 14－7 嘉穂農
久留米工 18－5 西田川
博多工 13－11 八幡工
香　椎 22－7 宗　像
福岡工 15－6 小倉工
▽同準々決勝
若　松 13－5 西南学院
小倉西 15－10 筑紫中央
博多工 25－15 久留米工
香　椎 24－20 福岡工
▽同準決勝
小倉西 12－3 若　松
博多工 17－16 香　椎
▽同決勝
小倉西 17－12 博多工
小倉西高は16年ぶり2回目の代表

▼女子1回戦（1試合）
福岡女商 16－0 南　筑
▽同準々決勝
古　賀 9－1 福岡女商
福岡女 17－6 信愛女
筑紫女 12－4 室見丘
明　善 19－1 東海五
▽同準決勝
古　賀 10－1 福岡女
筑紫女 7－4 明　善
▽同決勝
古　賀 12－1 筑紫女
古賀高は初出場

▽……佐賀県

▼男子・佐賀農（認定）＝初出場
▼女子予選リーグ
神埼農 20－6 佐賀東
嬉野商 23－3 伊万里学園
神埼農 7－6 佐賀女
清　和 20－1 伊万里学園
▽決勝トーナメント1回戦
神埼農 15－3 清　和
佐賀女 13－3 嬉野商
▽同決勝
神埼農 17－9 佐賀女
神埼農高は5年連続5回目の代表
（注）佐賀県から男子代表が送られるのは初めて。

▽……沖縄

▼男子1回戦
中部工 18－17 八　重
知　念 15－8 豊見城
▽同2回戦
那　覇 15－12 真和志
小　禄 13－8 興　南
那覇商 13－6 南　農
糸　満 14－11 宮　古
浦　添 9－6 中部工
北部農林 19－18 沖　縄
コ　ザ 15－7 沖縄工
知　念 12－6 首　里
▽同準々決勝
那　覇 11－9 浦　添
那覇商 8－7 小　禄
北部農林 16－11 コ　ザ
知　念 7－6 宮　古
▽同準決勝
那覇商 9－8 那　覇
北部農林 12－10 知　念
▽同決勝
那覇商 16－8 北部農林
那覇商は2年ぶり2回目の代表

▼女子1回戦
コ　ザ 3－1 豊見城
知　念 19－4 本　部
那覇商 11－1 興　南
浦　添 12－4 北部農林
沖　縄 9－0 真和志
八重山商工 10－8 北　山
▽同準々決勝（記録未着）
小　禄 －
那覇商 －
浦　添 －
首　里 －
▽同準決勝
那覇商 7－5 小　禄
浦　添 6－3 首　里
▽同決勝
浦　添 6－4 那覇商
浦添高は初優勝。

▽……宮崎県

▼男子予選リーグA組
都城工 16－5 日　南
都城工 15－10 日向工
泉ヶ丘 21－9 日向工
泉ヶ丘 22－9 日　南
都城工 8－5 泉ヶ丘
日向工 16－12 日　南
▼同B組
日南工 18－5 宮崎工
西都商 21－16 宮崎電子
日南工 28－7 宮崎電子
宮崎工 26－8 西都商
日南工 19－5 西都商
宮崎工 20－13 宮崎電子
▽同決勝トーナメント1回戦
都城工 13－7 宮崎工
泉ヶ丘 14－12 日南工
▽同決勝
泉ヶ丘 11－6 都城工
泉ヶ丘高は3年ぶり3回目の代表

▼女子予選リーグA組
小林商 18－9 都城西
都城西 20－7 延　岡
小林商 18－8 延　岡
▽同B組
泉ヶ丘 16－7 宮崎女
宮崎女 17－9 西都商
泉ヶ丘 14－7 西都商
▽同決勝トーナメント1回戦
小林商 16－4 宮崎女
都城泉ヶ丘 10－6 都城西
▽同決勝
小林商 10－6 都城泉ヶ丘
小林商は初出場

▽……大分県

▼男子決勝リーグ順位
①**大分東**4戦全勝(初出場)②鶴崎工3勝1敗③国東農2勝2敗④大分商1勝3敗⑤国東4敗
▼女子決勝戦
青　山 7－6 大分東
青山高は2年連続2回目の代表

▼注▲記録未着の県を残していますが本特集は今号で打ち切ります

■ジューキミシンは精密工学の結晶とうたわれる高級品。シャープなスタイリングで、その名を高めています。

松山商大、2回目の栄冠

第21回西部日本学生選手権大会は6月11日から13日までの3日間松山市の松山商大球技場に中四国学連6、九州学連8の計14校が参加してトーナメントで争われた。

ベストフォアは両学連の有力校が2校づつ進出、春の優勝校同士松山商大―熊本商大戦に注目が集ったが、松山商大は前半終了まぎわに東、大沢がリード点を奪い、後半も有利に試合を進め熊本商大をふり切った。決勝は中四国学連同士の対戦から松山商大が春季リーグにつづいて広島大福山から20ゴールを奪い快勝、2年ぶり2回目の優勝を飾った。中四国学連代表の優勝は4年連続15回目。

▽1回戦

広大福山（中四国）23（13―5、10―4）9 東海（九州）

福岡教大（九州）18（10―4、8―4）8 香川大（中四国）

西南学院（九州）28（13―5、15―8）13 近大呉（中四国）

熊本商大（九州）23（10―9、13―7）16 九州大（九州）

熊本工大（九州）16（10―4、6―6）10 福岡工大（九州）

九州産大（九州）15（7―6、8―4）10 広島商大（中四国）

▽準々決勝

広島大福山 12（7―7、5―2）9 山口大（中四国）

西南学院 12（5―7、7―2）9 福岡教大

熊本商大 11（7―6、4―3）9 熊本工大

松山商大（中四国）17（7―4、10―6）10 九州産大

▽準決勝

広島大福山 14（7―6、7―6）12 西南学院

松山商大 14（8―6、6―4）10 熊本商大

▽3位決定戦

西南学院 19（12―6、7―3）9 熊本商大

▽決勝

松山商大 20（11―5、9―6）11 広島大福山

	【松山】	得		【広大】	得
GK	佐竹	0	GK	唐沢	0
GK	山本	0			
FP	木原	2	FP	小西	3
FP	島本	2	FP	松ケ谷	0
FP	東	7	FP	小松原	1
FP	大沢	5	FP	入江	0
FP	大山	3	FP	恒成	2
FP	松浦	1	FP	磯道	3
FP	山口	0	FP	江藤	2
FP	赤松	0	FP	中野	0
FP	筒井	0			
FP	上野	0			
		20	（2）7MT（2）		11

（審・河本、伊藤）

対抗戦は「九州」が快勝

第4回中四国学連―九州学連対抗戦は6月11日午後5時から松山商科大体育館で行われ、立ちあがり岩原（西南学院）の巧技で優位に立った九州が終始試合のペースを握って快勝した。

九州学連選抜 22（13―5、9―5）10 中四国学連選抜

	【中四国学連】	得		【九州学連】	得
GK	佐竹（松山商大）	0	GK	九谷（熊本商大）	0
GK	山口（近畿大呉）	0	GK	高田（西南学院）	0
FP	木原（松山商大）	2	FP	木口（九州産大）	1
FP	島本（松山商大）	0	FP	岩原（西南学院）	4
FP	東（松山商大）	2	FP	九野（熊本商大）	0
FP	石田（山口大）	0	FP	久保（九州産大）	1
FP	磯道（広島大福山）	1	FP	田苗（熊本商大）	2
FP	大沢（松山商大）	1	FP	谷口（東海）	1
FP	長田（山口大）	1	FP	福島（九州大）	0
FP	小西（広島大福山）	2	FP	岸田（福岡工大）	4
FP	上垣内（広島商大）	1	FP	皿井（熊本工大）	4
FP	田中（香川大）	0	FP	池田（福岡教大）	3
		10	（0）7MT（2）		22

（審・河本、野中）

▽交替【九州】FP井上（九州産大）得2、林田（西南学院）得0、木下（福岡教大）得0、【中四国】FP中村（広島商大）、長山（近大呉）、林（近大呉）いずれも得0。

京都学生は同志社大勝つ

第19回京都学生選手権は5月29日から6月9日までの6日間立命館大長笠球技場で行われた。

▽予選リーグA組

同志社 26―6 竜谷

竜谷 棄権 京都大

同志社 27―9 京都大

▽同B組

京都産大 23―6 立命館

京都教大 14―13 立命館

京都産大 32―15 京都教大

▽5・6位決定戦

京都大 26―9 立命館

▽3・4位決定戦

竜谷 18―15 京都教大

▽決勝

同志社 24（10―11、14―2）13 京都産大

東北大が2連勝飾る

第22回東北地区大学総合体育大会ハンドボール競技（注・ハンドボールは第17回）は6月26・27日の両日岩手大グランドで開催。

▽1回戦（1試合）

福島大 23―9 宮城教大

▽準々決勝

福島大 26（10―6、16―6）12 東北工大

東北大 26（14―7、12―1）8 弘前大

仙台大 40（21―9、19―7）16 秋田大

東北学院 15（6―5、9―9）14 岩手大

▽準決勝

東北大 23（10―7、13―5）12 福島大

仙台大 15（9―5、6―7）12 東北学院

▽3位決定戦

東北学院 18（10―7、8―6）13 福島大

▽決勝

東北大 23（10―10、13―4）14 仙台大

お詫び・茨城大四部へ転落は誤報＝先号で関東学連の三部の記録学連からの記録にミスがあり、茨城大が四部へおちたというのは誤報でした。関係者に深くお詫びし訂正します。

ブロック高校選手権

第22回 北海道高校

◇6月26、27日◇登別市営グランド◇参加 男子8校 女子6校

男子は伝統の有力地区函館から登場の函館有斗と室蘭東が初優勝をかけて対戦函館有斗が辛勝した。女子は8連勝を狙う室蘭商が延長の末函館女商に敗れる大きな波乱があった。函館女商は初優勝、11年ぶりに函館地区へタイトルをもたらした。

▽男子決勝

函館有斗 6（3－3、3－2）4 室蘭東

▽女子決勝

函館女商 6（2－2、2－2…2－0）4 室蘭商

（注）決勝以外の試合記録は本誌20頁「全日本高校予選記録・北海道」の項参照

第24回 東北高校

男子は湯沢が3連勝
和洋女は涌谷振り切る

◇6月26、27日◇仙台・宮城県スポーツセンター◇参加男子12校、女子11校

男子は予想どおり湯沢（秋田）がスケールの大きい攻守で3連勝を飾った。秋田代表の優勝も3年連続。

女子は宿敵同士和洋女（秋田）―涌谷（宮城）が好勝負を演じ2年連続6回目の優勝をとげた。秋田代表の優勝は7回目。

▽男子1回戦

大石田（山形）16（6－4、10－5）9 仙台一（宮城）

聖光学院（福島）23（14－6、9－11）17 鰺ケ沢（青森）

七戸（青森）11（4－4、7－6）10 大曲（秋田）

盛岡商（岩手）19（10－5、9－10）15 岩瀬農（福島）

▽同準々決勝

湯沢（秋田）24（12－3、12－2）5 大石田

聖光学院 29（14－2、15－2）4 生活学園（岩手）

東根工（山形）16（6－3、10－11）14 七戸

盛岡商 20（11－6、9－3）9 古川工（宮城）

▽同準決勝

湯沢 26（14－3、12－6）9 聖光学院

盛岡商 16（8－4、8－8）12 東根工

▽同決勝

湯沢 15（6－5、9－6）11 盛岡商

▽女子1回戦

岩瀬農長沼分校（福島）11（3－3、4－4…1－1、3－2）10 竹田女（山形）

花巻南（岩手）7（2－2、5－1）3 青森西（青森）

米沢女（山形）14（9－1、5－1）2 八戸光星学園（青森）

花巻北（岩手）9（4－5、5－0）5 石川（福島）

▽同準々決勝

秋田和洋（秋田）18（10－2、8－3）5 岩瀬農長沼分校

花巻南 5（1－3、3－1…1－0、1－1）6 宮城三（宮城）

六郷（秋田）8（4－1、4－3）4 米沢女

湧谷（宮城）7（4－1、3－1）2 花巻北

▽同準決勝

秋田和洋 16（9－2、7－2）4 花巻南

湧谷 18（8－2、10－3）5 六郷

▽同決勝

秋田和洋 5（2－0、3－3）3 湧谷

第7回 北信越高校

小杉、小松市女とも2年ぶり

◇6月26、27日長野・北佐久農高◇参加男子10校、女子10校

男子準決勝は新旧有力校の対戦となり、結局優勝経験をもつ小杉（富山）―上田（長野）の対戦から小杉が押し切った。2年ぶり3回目の優勝、富山代表の優勝は2年ぶり4回目。

女子は地元2校がベストフォアに勝ち残ったものの準決勝、決勝では攻撃力に秀れた小松市女（石川）に名を成さしめた。同校の優勝は2年ぶり2回目。（石川代表の優勝も同じ）

▽男子1回戦（2試合）

金沢二水（石川）6（3－2、3－2）4 屋代（長野）

高岡日大（富山）19（9－4、11－6）10 金沢工大附（石川）

▽同準々決勝

小杉（富山）11（3－4、8－5）9 金沢二水

羽水（福井）12（6－1、6－2）3 巻（新潟）

上田（長野）13（7－5、6－3）8 福井商（福井）

高岡日大 18（7－9、11－5）14 柏崎工（新潟）

▽同準決勝

小杉 9（5－1、4－5）6 羽水

上田 12（7－2、5－8）10 高岡日大

▽同決勝

小杉 12（7－3、5－5）8 上田

▽女子1回戦（2試合）

小杉（富山）7（2－1、5－2）3 福井商（福井）

北佐久農（長野）5（4－2、1－2）4 小松商（石川）

▽同準々決勝

小諸商（長野）9（5－3、2－4…0－0、1－1…1－0、0－1）9 小杉

抽せんで小諸商高の勝ち

小松市女（石川）20（12－2、8－0）2 明訓（新潟）

巻（新潟）6（1－2、5－1）3 福井商（福井）

北佐久農 6（5－1、1－3）4 有磯（富山）

▽同準決勝

小松市女 10（6－3、4－5）8 小諸商

北佐久農 3（2－0、1－1）1 巻

▽同決勝

小松市女 6（3－2、3－1）3 北佐久農

第17回 関東高校

国学院栃木（女）初優勝
男子は東京代表9年連続

◇6月19、20、21日◇東京駒沢屋内球技場ほか◇参加男子24校、女子24校。

男子は全国大会でも優勝の呼び声高い中大附属（東京）が洗れんされた試合ぶりで決勝でも麻生高と延長戦の末降し優勝。2年連続3回目東京代表は9年連続。

女子は混戦を演じたが、進境めざましい国学院栃木が新進らしいはつらつとした攻守で初優勝、栃木代表の優勝は3年ぶり9回目。女子はこれで5年つづけてチャンピオン校が入れ替っている。

▽男子1回戦

竜ケ崎一（茨）8－7 前橋工（群）

草加（埼）7－6 足利工（栃）

小金（千）20－8 日川（山）

浦和市南（埼）14－13 甘楽農（群）

法政一（神）10－8 府中（東）

木更津（千）13－9 足利商（栃）

吉田（山）11－10 笠間（茨）

科学技術学園（東）14－10 新城（神）

▽同2回戦

塩山商(山)7―5竜ケ崎一
中大附属(東)19―7科学技術学園
佐原(千)10―8草加
川口工(埼)18―10小金
富岡(群)14―4浦和市立南
木更津 10―7国学院栃木
慶応(神)19―7法政二
麻生(茨)20―10吉田

▽同準々決勝
中大附属 18(6―2、12―1)3 塩山商
川口工 9(4―1、5―2)3 佐原
富岡 19(10―5、9―5)10 木更津
麻生 10(3―4、7―2)6 慶応

▽同準決勝
中大附属 13(7―4、8―5)9 川口工
麻生 13(4―4、7―7：1―0、1―0)11 富岡

▽同決勝
中大附属 16(7―9、7―5：2―1、0―0)15 麻生

▽女子1回戦
小山城南(栃)16―10佐原女(千)
下仁田(群)7―6朝霞(埼)
石岡二(茨)8―2桜ケ丘(神)
神代(東)12―8塩山商(山)
栃木女(栃)18―3横浜市南(神)
浦和市南(埼)15―2高崎女(群)
石岡商(茨)13―4日川(山)
佼成学園(東)11―5八千代(千)

▽同2回戦
小山城南 9―5市川崎(神)
国学院栃木 14―4下仁田
深谷女(埼)9―6石岡二
神代 9―7山梨(山)
栃木女 3―1昭和学院(千)
八郷(茨)8―2浦和市南
石岡商 10―3前橋市女(群)
桜水商(東)11―0佼成学園

▽同準々決勝
国学院栃木 12(4―3、8―3)6 小山城南
深谷女 11(4―1、7―3)4 神代
八郷 9(3―3、6―5)8 栃木女
桜水商 9(5―2、4―3)5 石岡商

▽同準決勝
国学院栃木 9(5―7、3―1：1―0、0―0)8 深谷女
八郷 10(3―5、7―1)6 桜水商

▽同決勝
国学院栃木 7(6―1、1―5)6 八郷

第18回 東海高校

中京高8年ぶりの栄冠
女子は名門・静岡城北

◇6月26、27日◇清水市立商球技場◇参加男子8校、女子8校

決勝は、桜台(愛知)を巧みにかわした岐山(岐阜)が初優勝のファイトに燃えて中京(愛知)と激戦を演じたが、中京の攻撃力が一歩優った。中京の優勝は中京商時代をふくめて8年ぶり4回目。愛知代表の優勝は3年連続16回目。

女子は静岡同士の決勝から名門静岡城北がインターハイ予選同よう清水商を1点差で退け2年連続7回目の栄冠に輝やいた。静岡代表の優勝は2年連続8回目。

▽男子1回戦(＝準々決勝)
中京(愛知) 25―8 四日市工(三重)
加納(岐阜) 10―3 静岡農(静岡)
岐山(岐阜) 22―6 津(三重)
桜台(愛知) 9―3 浜松南(静岡)

▽同準決勝
中京 18(7―2、11―4)6 加納
岐山 8(5―3、3―4)7 桜台

▽同3位決定戦
桜台 10(5―1、5―5)6 加納

▽同決勝
中京 19(7―4、12―2)6 岐山

▽女子1回戦(＝準々決勝)
名古屋女商(愛知) 14―2 津女子(三重)
静岡城北(静岡) 10―2 岐阜商(岐阜)
清水商(静岡) 8―4 暁(三重)
加納(岐阜) 8―5 高蔵女(愛知)

▽同準決勝
静岡城北 8(4―2、4―2)4 名古屋女商
清水商 5(3―2、2―2)4 加納

▽同3位決定戦
加納 9(3―7、6―1)8 名古屋女商

▽同決勝
静岡城北 5(2―2、3―2)4 清水商

第20回 四国高校

土居、宿願を果たす
抽せんで新居浜商おさえる

◇6月19、20日◇高松一高体育館◇参加男子8校―女子8校

男子は注目の前年度選手権校新居浜工(愛媛)が、まずまずのデキで19年連続優勝という偉業を飾った。

女子は、土居、新居浜商の愛媛勢が圧倒的な強味をみせ決勝に勝ち残った。手の内を知りつくした両校だけに容易に決め手をとれず2―2のまま第2延長後引き分け抽せんで土居に幸運が舞いこんだ初優勝。新居浜商の5連勝は成らなかった。

▽男子1回戦(＝準々決勝)
新居浜工(愛媛) 18(8―1、10―2)3 須崎工(高知)
三本松(香川) 13(7―0、6―4)4 城北(徳島)
高松工芸(香川) 12(6―3、6―4)7 追手前(高知)
池田(徳島) 10(6―3、4―5)8 松山東(愛媛)

▽同準決勝
新居浜工 10(9―1、1―5)6 三本松
高松工芸 18(7―3、11―11)14 池田

▽同3位決定戦
池田 9(6―3、3―6)9 三本松
引分け、両校3位

▽同決勝
新居浜工 13(8―4、5―3)7 高松工芸

▽女子1回戦(＝準々決勝)
三本松(香川) 14(7―3、7―5)8 辻(徳島)
新居浜商(愛媛) 6(4―1、2―2)3 山田(高知)
追手前(高知) 6(3―1、3―3)4 高松南(香川)
土居(愛媛) 11(4―1、7―1)2 池田(徳島)

▽同準決勝
新居浜商 7(3―0、4―0)0 三本松
土居 15(4―1、11―1)2 追手前

▽同3位決定戦
三本松 6(3―0、3―2)2 追手前

▽同決勝
土居 2(2―1、0―1：0―0、0―0：0―0、0―0)2 新居浜商
抽せんで土居高の勝ち。

近畿・九州は次号　第14回近畿高校、第21回九州高校は次号

大学定期戦

▼第26回関学—早稲田定期戦（6月19日・神戸市立中央体育館）

早稲田 21（9—9、12—8）17 関学

早稲田は2連勝。通算成績は関学の15勝11敗。

▼第24回慶応—京大定期戦（6月26日・慶大日吉記会館）

▽OB戦

三田ク 22—20 京大OB

▽現役戦

慶大 16（8—8、8—7）15 京大

慶応は2年ぶりの勝ち、通算成績慶応の16勝6敗2分

▼第18回慶応—甲南定期戦（7月4日・東京大田区立体育館）

▽OB戦

三田ク 16—10 甲南OB

▽現役戦

慶応 19（9—8、10—2）10 甲南

慶応は3年ぶりの勝ち、通算成績慶応の14勝4敗

▼第21回東大—京大定期戦（6月27日・御殿下グランド）

▽OB戦

京大OB 13—7 東大OB

▽現役戦

京大 25—18 東大

通算成績は京大の19勝2敗

各地の記録

宮城で県内選抜大会

▼第1回宮城県会長杯争奪選抜リーグ（6月・宮城二女高）

▽A組

宮城教員 18—17 東北大

東北大 28—23 古川工OB

宮城教員 23—19 古川工OB

▽B組

仙台大 23—17 古川工高

東北学院大OB 19—16 仙台大

東北学院大OB 16—14 マツダ

古川工高 23—11 マツダ

女子に扇屋が初登場

▼千葉県春季総合選手権（6月・佐原高）

▽男子準々決勝

海上自衛隊下総A 04—03 八千代高

千葉工大A 12—10 佐原高

千葉商大 12—9 海上自衛隊下総B

千葉教員 26—13 小金校

▽同準決勝

千葉教員 23—7 千葉商大

千葉工大A 11（分）11 海上自衛隊下総A

抽せんで千葉工大Aの勝ち

▽同決勝

千葉教員 23（13—4、10—3）7 千葉工大A

▽女子1次戦

扇屋 9—0 佐原女高B

▽同決勝

扇屋 4（3—0、1—1）1 佐原女高A

男女とも小松勢勝つ

▼石川県高校春季大会（4月・松任高）

▽男子準々決勝

県工 10—8 二水

泉丘 16—8 星稜

小松工 11—10 金沢商

松陵工 11—4 小松商

▽同準決勝

小松工 11—5 県工

松陵工 11—10 泉丘

▽同決勝

小松工 13（4—3、9—7）10 松陵工

▽女子準々決勝

金沢商 6—5 珠州実

大谷 10—7 羽咋

小松市女 13—7 小松商

松任 12—2 津幡

▽同準決勝

小松市女 22—0 金沢商

大谷 13—4 松任

▽同決勝

小松市女 19（8—1、11—1）2 大谷

▼第3回勝田市民（茨城）大会（6月・自衛隊グランド）＝男子のみ

▽準々決勝

第三中隊 16—1 本部中隊

教育部 10—9 第二中隊

第一中隊 9—6 BOC

野整備隊 14—8 管理中隊

（注）勝者4チームはいずれも自衛隊

▽準決勝

第三中隊 10—7 教育部

野整備隊 9—7 第一中隊

▽決勝

第三中隊 9（3—2、6—2）4 野整備隊

▼第25回宮崎県民体育大会ハンドボール競技（6月・都城）

▽高校男子準決勝

日南工 17—3 日向工

宮崎工 13—11 都城泉ケ丘

▽同決勝

日南工 18（8—5、10—5）10 宮城工

▽同女子準決勝

小林商 14—4 西都商

都城泉ケ丘 6—5 都城西

▽同決勝

小林商 9（6—5、3—3）8 都城泉ケ丘

▽一般男子市対抗決勝

宮崎市 24（12—6、12—7）13 都城市

少女雑誌にハンドボールが登場

少女雑誌「週刊マーガレット」にハンドボールを題材にしたいわゆる〝スポーツ根性漫画〟が連載され話題になっている。5月29日号から10回つづきの「がめつくシュート」（浦野千賀子作）がそれで発行所の集英社編集部（東京）の話では読者の人気もなかなかだという。

茨城協会長に宮川氏

茨城県協会は7月7日新会長日本協会評議員）に宮川健一郎氏＝水海道体協理事長、前水海道二高校長＝を決めた。

前会長増田一氏が健康上の理由で辞意を表明されたため。

北海道でもクラブ大会

北海道協会は9月4、5の両日函館市で初のクラブ大会を開く。国体北海道予選会と併行して開かれる予定。

全国スポーツ少年大会に復活

日本スポーツ少年団本部による第9回全国スポーツ少年大会は8月3日から8日まで東京で開かれるが、スポーツ活動の選択種目（18競技）にハンドボールが2年ぶりで復活した。

登録チームは1623

日本協会では、本年度の登録を5月31日に〆切ったが全国チーム数は78増加して、千六百をこえた。学生女子を除き、各部門とも増加しているが一般男、高校男女ののびが著しい。

編集後記

スウェデンの来日も近づき、今年のもっとも本格的なシーズンになりました。オリンピック予選まであと三ケ月。ガンバラナクテワ。

日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』 第八十九号
昭和四十年六月十日 第三種郵便物認可
昭和四十六年七月二十五日印刷 昭和四十六年八月一日発行
発行所 日本ハンドボール協会
東京都渋谷区神南一ー一ー一
電話 大代表(467)三二一一
振替東京五八三四八番
編集兼発行人 保坂周助
定価百五十円
(年間購読11回・千二百円)